

横浜国立大学大学院 環境情報学府

履 修 案 内

人工環境専攻
自然環境専攻
情報環境専攻

令和7年度（2025年度）入学生用

目次

I	横浜国立大学大学院環境情報学府の概要	- 3 -
1	博士課程設置趣旨	- 3 -
2	専攻と教育プログラム	- 3 -
II	科目の履修・成績等について	- 6 -
1	授業の開講方法	- 6 -
2	履修登録関係	- 6 -
3	成績関係	- 7 -
4	試験週間要領	- 8 -
5	短縮修了について	- 8 -
6	個別英語研修について	- 8 -
7	副専攻プログラムについて	- 8 -
8	学修証明プログラムについて	- 10 -
9	履修登録手続き流れ図	- 10 -
III	環境情報学府の指導教員（令和7年4月現在）	- 11 -
IV	履修基準及び科目	- 12 -
1	前期課程	- 12 -
2	後期課程	- 27 -
V	社会人学生の履修等に関する特例について	- 34 -
1	長期履修について	- 34 -
2	修学について	- 34 -
3	履修について	- 34 -
VI	教務関係諸手続	- 35 -
1	証明書の発行について	- 35 -
2	休学、復学、退学、他大学受験について	- 35 -
3	諸届出について	- 37 -
VII	教員連絡先一覧（50音順）	- 38 -
1	常勤教員	- 38 -
2	客員教員	- 41 -
VIII	地図	- 42 -
1	環境情報1号棟1階掲示板	- 42 -
2	環境情報1号棟2階事務室	- 42 -
3	環境情報1号棟3階講義室・ゼミ室	- 43 -

令和7年度(2025年度) 学事暦

学期・ターム・月		日	月	火	水	木	金	土	
春学期	第1ターム	4月							4/3(木) 英語プレイスメントテスト(1年生のみ)
					1	2	3	4	4/4(金) 入学式
			6	7	8	9	10	11	4/7(月)～8/5(火) 春学期(セメスター科目)
			13	14	15	16	17	18	4/7(月)～6/6(金) 春学期前半(第1ターム科目)
			20	21	22	23	24	25	4/7(月)～4/18(金) 履修登録期間
			27	28	29	30			4/24(木)～4/28(月) 履修登録確認・訂正期間
		5月					1	2	4/30(水)、5/1(木)、5/2(金)は授業を行わない
			4	5	6	7	8	9	5/6(火)は授業を行う(祝休日開講日)
			11	12	13	14	15	16	5/12(月)～5/16(金) 履修登録キャンセル期間
			18	19	20	21	22	23	5/12(月)～5/16(金) 補講週間
			25	26	27	28	29	30	5/17(土)～5/18(日) 清陵祭(5/17(土)は準備を含む)
	第2ターム	6月	1	2	3	4	5	6	6/2(月)～6/6(金) 第1ターム試験期間
			8	9	10	11	12	13	(セメスター科目は通常授業)
			15	16	17	18	19	20	6/9(月)～8/5(火) 春学期後半(第2ターム科目)
			22	23	24	25	26	27	6/23(月)～6/27(金) 履修登録キャンセル期間
			29	30					(第2ターム科目)
		7月			1	2	3	4	7/7(月)～7/11(金) 補講週間
			6	7	8	9	10	11	
			13	14	15	16	17	18	
			20	21	22	23	24	25	7/29(火)～8/5(火) 春学期・第2ターム試験期間
			27	28	29	30	31		(8/5(火)は試験の予備日)
	第3ターム	8月					1	2	8/6(水)～9/30(火) 夏季休業期間(第3ターム)
			3	4	5	6	7	8	
			10	11	12	13	14	15	
			17	18	19	20	21	22	
			24	25	26	27	28	29	
		9月	31						
				1	2	3	4	5	9/17(水) 秋季卒業式・修了式(予定)
			7	8	9	10	11	12	
			14	15	16	17	18	19	10/2(木) 秋季入学式(予定)
			21	22	23	24	25	26	10/3(金)～2/12(木) 秋学期(セメスター科目)
秋学期	第4ターム	10月				1	2	3	10/3(金)～12/1(月) 秋学期前半(第4ターム科目)
			5	6	7	8	9	10	10/3(金)～10/16(木) 履修登録期間
			12	13	14	15	16	17	10/13(月)は授業を行う(祝休日開講日)
			19	20	21	22	23	24	10/22(水)～10/24(金) 履修登録確認・訂正期間
			26	27	28	29	30	31	10/31(金)～11/2(日) 常盤祭(10/31(金)は準備を含む)
		11月	2	3	4	5	6	7	11/3(月)は授業を行う(祝休日開講日)
			9	10	11	12	13	14	11/3(月)～11/7(金) 履修登録キャンセル期間
			16	17	18	19	20	21	11/10(月)～11/14(金) 補講週間
			23	24	25	26	27	28	
			30						11/25(火)～12/1(月) 第4ターム試験期間
	第5ターム	12月		1	2	3	4	5	(セメスター科目は通常授業)
			7	8	9	10	11	12	12/2(火)～2/12(木) 秋学期後半(第5ターム科目)
			14	15	16	17	18	19	12/8(月)～12/12(金) 履修登録キャンセル期間(第5ターム科目)
			21	22	23	24	25	26	12/23(火)は金曜日の授業を行う
			28	29	30	31			12/24(水)～1/4(日) 冬季休業期間
		1月					1	2	
			4	5	6	7	8	9	1/16(金)～1/18(日) 大学入学共通テスト休業日
			11	12	13	14	15	16	(1/17(土)及び1/18(日)は大学構内入構不可)
			18	19	20	21	22	23	1/19(月)～1/23(金) 補講週間
			25	26	27	28	29	30	
	第6ターム	2月		1	2	3	4	5	2/3(火)～2/10(火) 秋学期・第5ターム試験期間
			8	9	10	11	12	13	(2/10(火)は試験の予備日)
			15	16	17	18	19	20	2/12(木) 英語統一テスト(英語LR) 試験日
			22	23	24	25	26	27	2/13(金)～3/31(火) 春季休業期間(第6ターム)
									2/25(水) 前期日程試験(大学構内入構規制)
		3月	1	2	3	4	5	6	
			8	9	10	11	12	13	3/12(木) 後期日程試験(大学構内入構規制)
			15	16	17	18	19	20	
			22	23	24	25	26	27	3/25(水) 卒業式・修了式
			29	30	31				

	試験期間		試験期間(予備日)
	英語統一テスト・プレイスメントテスト		
	授業振替日		
	祝日開講日		

I 横浜国立大学大学院環境情報学府の概要

1 博士課程設置趣旨

21世紀において、世界全体が直面しており、その対応が求められている課題は、持続的に発展する安全で快適な社会の実現、すなわち「安心・安全な持続可能社会の創生」であるとされています。環境に対する捉え方においては、数多くの分野の関わりが重要であり、分野の枠組みを越えた俯瞰的な知識の重要性が増しています。

上記に関わる社会的課題を解決するために、環境情報学府では「環境」と「情報」を基軸に、安心・安全な持続可能社会の創生を目指して、学際的な文理融合・異分野融合の教育研究を行います。その基軸の1つである「環境」を次の3つの側面が不可分に重なりあったものと捉え、それぞれに対応する専攻を置いています。

- 人工環境 ヒトとモノが作る環境
- 自然環境 自然が提供する環境
- 情報環境 情報が作り上げる環境

もう1つの基軸である「情報」については、狭義の情報科学や情報工学分野にとどまらず、広く情報学の立場から環境情報学府の全分野を貫くものと考えます。

環境情報学府では、前述の3つの環境の相互作用が生み出す情報に基づき、理系・文系の枠を越えて、新たな社会的価値を創生し、様々な分野で、安心・安全な持続可能社会の構築に貢献できる人材を養成します。更に、個々の専門分野に特化した知識や技能を備えつつも、分野を越えたコミュニケーションの行える力量をもった人材の育成を実現します。

博士課程前期においては、持続可能な社会及び自然環境、先端的な情報学に関する文理融合教育を実践し、リスク共生学の研究成果に基づいた知識や技術をイノベーションに繋げて社会で活躍できる高度専門職業人を育成します。博士課程後期においては、更に高度な専門教育及び分野横断的かつ文理融合教育と、自らの研究活動を通して、環境系・情報系・人文社会系に広く関わる課題を発見及び解決し、理系・文系の枠を越えた新たな社会的価値を創生することで、安心・安全な持続可能社会の構築に貢献するとともに、その分野を牽引できるリーダー的な人材を育成します。

2 専攻と教育プログラム

環境情報学府には、人工環境専攻、自然環境専攻、情報環境専攻の3つの専攻があり、各専攻には、それぞれ3つの教育プログラムがあります。教育プログラムは、各専攻において取得する学位の種類に応じて設定された授業科目（以下「科目」という。）の履修の仕方であり、履修可能な科目群と修了に必要な単位が定められています。各学生は、入学時に、履修する教育プログラム及び取得する学位を定めます。教育プログラムは、それぞれの学位を取得した人材がどのような専門性を持ち、どのような知識と技能を修得しているのかを明確に示すために設定されています。

博士課程前期

専攻名	教育プログラム（取得できる学位）
人工環境専攻 人工的な構造物によって構成される都市や産業プラントに加え、そこで暮らす人々の営みや地域社会との関係までを視野に入れ、ヒトとモノによって作られる環境である人工環境において持続可能社会を創生する際に必要な安心・安全を確保するための先端的就実地的、工学的な技術に加え、それを社会実装する上で解決すべき問題などを探求できる人材を育成する。	安全環境工学プログラム(修士(工学)) 都市や産業プラント、インフラ、エネルギーステーションなどの設計や災害時の対策や避難経路の確保や速やかな復旧など、安全工学的な視点で安心・安全を検討できる知識と技能を備えた人材を育成する。
	環境学プログラム(修士(環境学)) 安全工学的な技術を社会実装するために、これらの技術に関する十分な知識に基づいてリスクを評価し、法制化や政策立案へとつなげていくことのできる人材を育成する。
	社会環境プログラム(修士(学術)) 人工環境の中で暮らす人々の営みに注目して、企業経営や自治体の在り方、福祉や健康にも配慮して、安心・安全を考える人材を育成する。
自然環境専攻 人間社会を持続可能なものにするためには、その基盤となる自然環境の持続可能性や安全確保に関する知見が必要である。生命環境の利用・保全、中長期的な生態系の持続可能性のみならず、地球史的な環境の変化についての理解から地域住民との関わりまでを視野に入れた知識と技能を修得した人材を育成する。	生態学プログラム(修士(環境学)) 私たちを取り巻く自然環境の保全、維持、回復を考えるためには、もとより生態学・生命科学の知識が重要である。この教育プログラムでは、自然との共存を図りながら、地域社会や世界の持続可能性を確保するために必要な生態学の知識と技能を修得した人材を育成する。
	地球科学プログラム(修士(理学)) 近年の激化する気候変動、それに伴う大災害や地震など、私たちの環境の安心・安全を根本から覆すような出来事も多く、激変する自然環境に対して地球科学・生命科学の理解とそれらに基づいた対策を検討する必要がある。この教育プログラムでは、その対策に寄与できる科学的な知見に精通した人材を育成する。
	環境学術プログラム(修士(学術)) Future Earth 構想の中で主張されているように、地球規模の環境問題は生態学、生命科学、地球科学の研究者だけで解決できることではなく、様々なステークホルダーも取り込んだ超学際的な研究が必要である。この教育プログラムでは、生態系を守るための法制度や地域住民との関わりなどにも配慮した自然環境管理の在り方を構想・提案できる人材を育成する。
情報環境専攻 持続可能社会における安心・安全を確保するためには、私たちを取り巻く情報の在り方、つまり「情報環境」に目を向ける必要がある。情報環境に関して、先端的な情報技術や情報システムのセキュリティのみならず、大量の情報に向き合う人間の有り様に対する理解や数理的なデータ解析の方法にも精通した人材を育成する。	情報学プログラム(修士(情報学)) IoT や AI など、情報環境を作り上げる先進的な技術や情報セキュリティ、情報システムを活用するツールなどを開発できる知識と技能を備えた人材を育成する。
	数理科学プログラム(修士(理学)) 情報環境の中で日々蓄積されていくビッグデータの解析を行うためには、従来の統計学に加え、現代数学の手法にも精通した人材が重要であると言われている。この教育プログラムでは、そのような現代数学を中心に多くの数理科学的手法を修得した人材を育成する。
	情報学術プログラム(修士(学術)) 情報技術において不可欠な言語処理の原理を提供する理論言語学や、人工環境・自然環境における各種の現象を明らかにする数理シミュレーションなど、多分野との関連を見据えた情報学・数理科学を活用できる人材を育成する。

博士課程後期

専攻名	教育プログラム（取得できる学位）
人工環境専攻 産業プラント、インフラ、地域社会など、持続可能社会における安心・安全を確保するための工学的技術やそれを社会実装するための方法に関する先端的な知識と技能を備えた上で、様々な専門分野の知見やステークホルダーにも配慮して、社会における安心・安全を確保する新しいシステムやサービスを生み出し、自らの専門分野を牽引していける人材を育成する。	安全環境工学プログラム(博士(工学)) 都市や産業プラント、インフラ、エネルギーステーションなどの設計や災害時の対策や避難経路の確保や速やかな復旧、更には新技術の推進など、人工環境における安全を確保するための工学的な高度専門的知識を有し、先端的な研究を行える人材を育成する。
	環境学プログラム(博士(環境学)) 人工環境と社会環境に配慮した科学技術の社会実装や法制化に関する高度専門知識を有し、人がつくり出す環境による汚染や課題等の実態やその影響などに関する先端的な研究を行える人材を育成する。
	社会環境プログラム(博士(学術)) 社会環境に関する高度専門知識を有し、人工環境の中で暮らす人々の営みに注目するとともに福祉や健康にも配慮した企業経営や自治体の在り方などについて、先端的な研究を行える人材を育成する。
自然環境専攻 人間社会を持続可能なものにするためには、その基盤となる自然環境の持続可能性や安全確保に関する高度で専門的な知見が必要である。生命環境や生命現象の探求・利用、生態系の中長期的な持続可能性の探求とその展望、地球史的な環境変化や地球深部までも含めた地球の高度な理解、更に自然環境と地域住民との社会的関わりなどの探求などを基礎とし、人と自然の関係における問題点を高度な専門性に立って考察し、その解決策を提示できる専門知識と専門技能を修得した人材を育成する。	生態学プログラム(博士(環境学)) 私たちを取り巻く自然環境の保全、維持、回復を考えるためには、もとより生態学や生命科学の高度な専門知識が必要である。この教育プログラムでは、自然との共存を図りながら、地域社会や世界の持続可能性を確保するために必要な生態学を中心とし生命科学や地球科学の専門性をも取り込んだ高度な知識と技能を修得した人材を育成する。
	地球科学プログラム(博士(理学)) 近年の激化する気候変動や多発する大地震に伴う大災害など、私たちの環境の安心・安全を根本から覆すような出来事が多発し、これらの激変する自然環境に対して地球科学や生命科学の高度な理解と生態学をも取り入れた、多様な専門知識に基づいた自然現象の探求を行う必要がある。この教育プログラムでは、その探求に寄与できる高度な科学的知見に精通した人材を育成する。
	環境学術プログラム(博士(学術)) Future Earth 構想の中で主張されているように、地球規模の環境問題は生態学、生命科学、地球科学の研究者だけで解決できることなく、様々なステークホルダーも取り込んだ超学際的な高度な研究が必要である。この教育プログラムでは、生態系を守るための法制度や地域住民との関わりなどにも配慮した自然環境管理の在り方を、高度な専門的知見に基づいて探求・構想・提案できる人材を育成する。
情報環境専攻 持続可能社会における安心・安全を確保するためには、私たちを取り巻く情報の在り方、つまり「情報環境」に目を向ける必要がある。情報セキュリティ、IoT、AI、ビッグデータ解析など、情報技術と数理科学に関する先端的な知識と技能を備えた上で、「情報」が生み出す新しい社会的な価値と意味を理解し、それを現実社会におけるシステムやサービスの創出につなげ、更に新しい情報技術や数理科学的解析手法を開発し、自らの専門分野を牽引していける人材を育成する。	情報学プログラム(博士(情報学)) IoT や AI など、情報環境を作り上げる先進的な技術や、情報セキュリティ、情報システムを活用するツールなどの開発に関する高度専門知識を修得し、先端的な研究により自らの専門分野を牽引していける人材を育成する。
	数理科学プログラム(博士(理学)) 情報環境の中で日々蓄積されていくビッグデータの解析を行うためには、従来の統計学に加え、現代数学の手法にも精通した人材が重要であると言われている。この教育プログラムでは、そのような現代数学に精通し、数理的なデータ解析に関する高度専門知識を修得し、先端的な研究により自らの専門分野を牽引していける人材を育成する。
	情報学術プログラム(博士(学術)) 情報技術において不可欠な言語処理の原理を提供する理論言語学や、人工環境・自然環境における各種の現象を明らかにする数理シミュレーションなど、多分野との関連を見据えた情報学・数理科学の活用に関する高度専門知識を修得し、先端的な研究により自らの専門分野を牽引していける人材を育成する。

II 科目の履修・成績等について

1 授業の開講方法

(1) 2学期6ターム制について

環境情報学府では、各科目間の柔軟で円滑な連携を図るために「2学期6ターム制」を導入しています。春学期を第1タームと第2タームに分割し、それぞれを8週で構成しています。夏季休業期間は第3タームとして位置付けられ、海外インターンシップ等に活用することができます。同様に、秋学期を第4タームと第5タームに分割し、春季休業期間が第6タームとなります。

科目は1単位を原則とし、各タームで週1コマ開講する授業を修めると1単位の修得となります。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
春学期				夏季休業期間		秋学期			休	春季休業期間	
第1ターム		第2ターム		第3ターム		第4ターム		第5ターム		第6ターム	

2 履修登録関係

(1) 履修計画について

入学後のオリエンテーション等の指定された日時及び場所で、履修案内含むオリエンテーション資料を受け取ってください。その後、履修案内及び時間割表(※)を参考に修了までの履修計画を立て、履修計画書(※)に記入したものを責任指導教員に提出してください。それが認められ、責任指導教員が署名又は捺印したもののコピーを受け取り、控えとして保管してください。履修計画が変わった場合は、その都度最新の履修計画書を責任指導教員に提出してください。

以下の(2)から(4)で説明している手続きは学務情報システムを利用して行います。操作方は、別途配付するマニュアルを参照してください。利用できる期間は、別途配付する「履修登録・成績処理日程」を参照してください。

※「授業支援システム」からダウンロード及び印刷してください。学生が作成する様式は、基本的にこちらに掲載しております。

URL : <https://lms.ynu.ac.jp/lms/loginLgir/>

(2) 履修登録期間

履修登録期間では、作成した履修計画書に基づいて、科目の履修登録をしてください。

春学期履修登録期間中に、春学期だけではなく秋学期の科目の履修登録をすることもできますが、秋学期履修登録期間中に翌年度春学期の科目の履修登録をすることはできません。

同じ学期の中で、同じ科目が複数のタームで開講されている場合、例えば、春学期である1タームと2タームの両方で同じ科目が開講されていた場合は、いずれか1つのタームを選んで履修登録をすることのみでき、複数のタームで履修登録をすることはできません。

(3) 履修登録確認・訂正期間

履修登録確認・訂正期間では、履修計画書どおりに履修登録がされているかを確認してください。履修計画書どおりに履修登録がされていない場合及びエラー科目がある場合は訂正してください。

(4) 履修登録キャンセル期間

履修登録キャンセル期間では、履修登録をした科目を削除すること（以下「履修キャンセル」という。）ができます。ただし新たに履修登録をすることはできません。集中講義は開講初日の前日まで履修キャンセルをすることができます。

第2ターム及び第5ターム開講科目用履修キャンセル期間中の履修キャンセル、並びに履修キャンセル期間外の集中講義の履修キャンセルを、学務情報システムから行うことはできません。「授業支援システム」で行います。「【連絡専用】 大学院環境情報学府係→各種申請様式→第2・5ターム開講科目 履修キャンセル申請」「集中講義 履修キャンセル申請」から入力してください。

(5) 履修上の一般的注意

同じ曜日かつ時限に複数の科目を履修登録することはできません。

特定の科目を除いて、既に単位を修得した科目を改めて履修することはできません。

科目によっては「授業支援システム」を利用して資料のダウンロードやレポートの提出等を行う場合があります。履修登録をしていない科目を受講することはできず、試験を受けても無効となります。

(6) 入学前の既修得単位の認定について

本学大学院学則第13条に基づき、入学する前に大学院（他の大学院及び外国の大学院を含む。）において履修した科目について修得した単位を有する場合、修了に必要な単位として認定される場合がありますので、入学後最初の履修登録期間最終日までに環境情報学府係に申し出てください。

3 成績関係

(1) 履修した科目の成績について

履修した科目の成績は、筆記試験、口頭試験、実技試験又は研究報告により判定し、秀、優、良、可及び不可の5種の標語で表し、それぞれの評価に対して次の(2)に定めるところにより GP(Grade Point)を与えます。判定の結果、秀、優、良及び可を取得した学生には、所定の単位を与えます。

原則として、追試験及び再試験は行わず、また、**出席日数が全講義日数の1/2**に満たない学生は単位認定の資格を失います。また、履修キャンセルをしないで履修を途中で放棄した場合、その科目の成績評価は「不可」となります。

特定の科目を除いて、成績評価が不可になった科目を、翌学期以降改めて履修し（以下「再履修」という。）、成績評価が「可」以上と判定された場合、その科目の成績評価は再履修したときのものが適用されます。

履修した科目の成績は、春学期開講科目は10月上旬に、秋学期開講科目は翌年4月上旬に学務情報システムで確認することができます。正確な日程は、別途配付する「履修登録・成績処理日程」を参照してください。

また、成績評価について不明な点が生じた場合は、様式「履修科目成績確認願」（様式は「授業支援システム」からダウンロードしてください。）に必要事項を記入し、受付期間内に環境情報学府係に提出してください。「履修科目成績確認願」の受付期間は、春学期開講科目の場合は、同年度の秋学期の履修登録期間内に、秋学期開講科目の場合は、次年度の春学期の履修登録期間内とし、受付期間を過ぎた場合は受付いたしません。また、成績に関する嘆願等は対象となりません。「履修科目成績確認願」の内容は、授業担当教員に回答依頼し、その回答を担当の環境情報学府学務委員会委員が確認の上、申請した学生に回答いたします。

他の研究科・学府の開講科目については、他研究科・他学府の定めに従ってください。

(2) G P A (Grade Point Average) 制度について

G P A制度とは成績評価方法の名称です。本学では平成15年度に入学した学生から「大学教育の質的向上」及び「国際的水準に見合った成績評価」を目的にG P A制度が導入されています。個々の科目について成績評価に応じたG Pを与え、以下の式によってG P A値を算出します。

$$G P A = \Sigma (G P \times \text{単位数}) \div \text{履修登録単位数}$$

成績評価（評価点）及び対応するG Pは以下の表のとおりです。

点 数	成績表記	Grade Point	単位
100点 ～ 90点	秀	4.5	単位を与える
89点 ～ 80点	優	4.0	
79点 ～ 70点	良	3.0	
69点 ～ 60点	可	2.0	
59点 ～ 0点	不可	0.0	単位を与えない

※成績表記が「認定」の科目はG P Aの計算に含まれません。

G P A算出対象科目は以下のとおりです。

- ・人工環境専攻：全科目
- ・自然環境専攻：全科目
- ・情報環境専攻：全科目

4 試験週間要領

試験週間は「学事暦」のとおりとします。

試験週間内の試験は、原則として当該科目が時間割表に定められた曜日かつ時限に行います。

受験の際は次の事項に注意してください。

- ・受験の際は学生証を机上に提示してください。
- ・受験中の不正行為は、大学院学則第24条により懲戒処分とします。

5 短縮修了について

修了要件を満たす見込みの学生の内、優れた研究業績を上げたと認められたものは、標準修了年限に満たなくても修了すること（以下「短縮修了」という。）ができます。詳細は責任指導教員又は学務委員に確認してください。

短縮修了を希望する学生は、原則として論文審査申請書提出期間までに「短縮修了申請書」を提出してください。なお、演習やワークショップを標準的ではない時期に履修する必要がある場合があるので、必ず事前に責任指導教員に相談してください。

6 個別英語研修について

環境情報学府に所属している学生に対し、外部の英語専門機関による「個別英語研修」を実施します。詳細は「授業支援システム」をご確認ください。

7 副専攻プログラムについて

副専攻プログラムは、所属する課程や専攻に関わらず、特定の課題や分野を系統的に学習する機会を設けたプログラムです。プログラムが定めた科目を修得した学生には認定証又は修了証が発行され、成績証明書にも記載されます。大学院全学教育科目及び環境情報学府開講科目については、9ページを参照してください。なお、各プログラムの受講要件はそれぞれ異なります。詳細及び他の研究科又は学府の科目一覧は横浜国立大学ウェブサイトをご確認ください。

U R L : https://www.ynu.ac.jp/education/ynu_education/vice_special.html

副専攻プログラム授業科目一覧（大学院全学教育科目・環境情報開講科目）※1

部局	授業科目の名称	単位数	副専攻※2			
			海洋管理	地域創造	起業家	安心安全
（大学院共通） 大学院全学教育科目	統合的海洋管理学Ⅰ	2	必	専		
	統合的海洋管理学Ⅱ	2	必	専		
	沿岸域管理の法制度	2	選	専		
	海洋政策と法制特論	2	選	専		
	リスクベースによる規則制定手法	2	選	専		
	海洋産業特論	2	選	専		
	地域創造論	2	選	必		
	イノベーションと課題発見Ⅰ	2			必	
	イノベーションと課題発見Ⅱ	2			必	
	イノベーションと課題発見Ⅲ	2			必	
	イノベーションと起業Ⅱ	2			必	
	神奈川県を取り組む技術課題	2		専		
	リスクマネジメントと社会技術	2		専		必
	安心安全マネジメント特別演習	2				必
	リスク社会とコミュニケーション	2		専		選
	デジタルメディアのしくみ	2				
	異分野交流ちはやふる	2				
	地域経済政策特論	2		専		
	現場から考える国際開発協力：JICA連携講座	2				
	グローバル・シティズンシップ	2				
環境情報学 府開講科目	海洋生物環境学Ⅰ	1	選			
	海洋生物環境学Ⅱ	1	選			
	環境法Ⅰ	1	選	専		
	古生態学Ⅰ	1	選			
	古生態学Ⅱ	1	選			
	地球システム科学Ⅰ	1	選			
	地球システム科学Ⅱ	1	選			
	湖と川の生態学Ⅰ	1	選			
	湖と川の生態学Ⅱ	1	選			
	古海洋学 ※3	1	選			
	海洋地質学 ※3	1	選			
	地域政治経済システム論	1		専		
	地域発展政策論	1		専		
	ユネスコエコパークや関連制度を活用した環境共生型地域の創出	1		専		
	ライフサイクルアセスメントⅠ	1		専		
	ライフサイクルアセスメントⅡ	1		専		
	産業災害事故の解析と設備のリスクアセスメントⅠ	1				選
	機械システムのリスク評価と制御技術Ⅰ	1				選
	火災の科学と防火技術Ⅰ	1				選

※1 「環境情報学際副専攻プログラム」は、別途配付するプログラムの履修案内を参照してください。

※2 副専攻の欄は、当該副専攻プログラムの授業科目の区分です。

必＝各副専攻プログラムにおける「必修科目」

選＝各副専攻プログラムにおける「選択科目」又は「選択必修科目」

専・実＝「地域創造論」副専攻プログラムの選択科目である「専門型関連科目」「実践型関連科目」

※3 この科目については修了要件となりません。

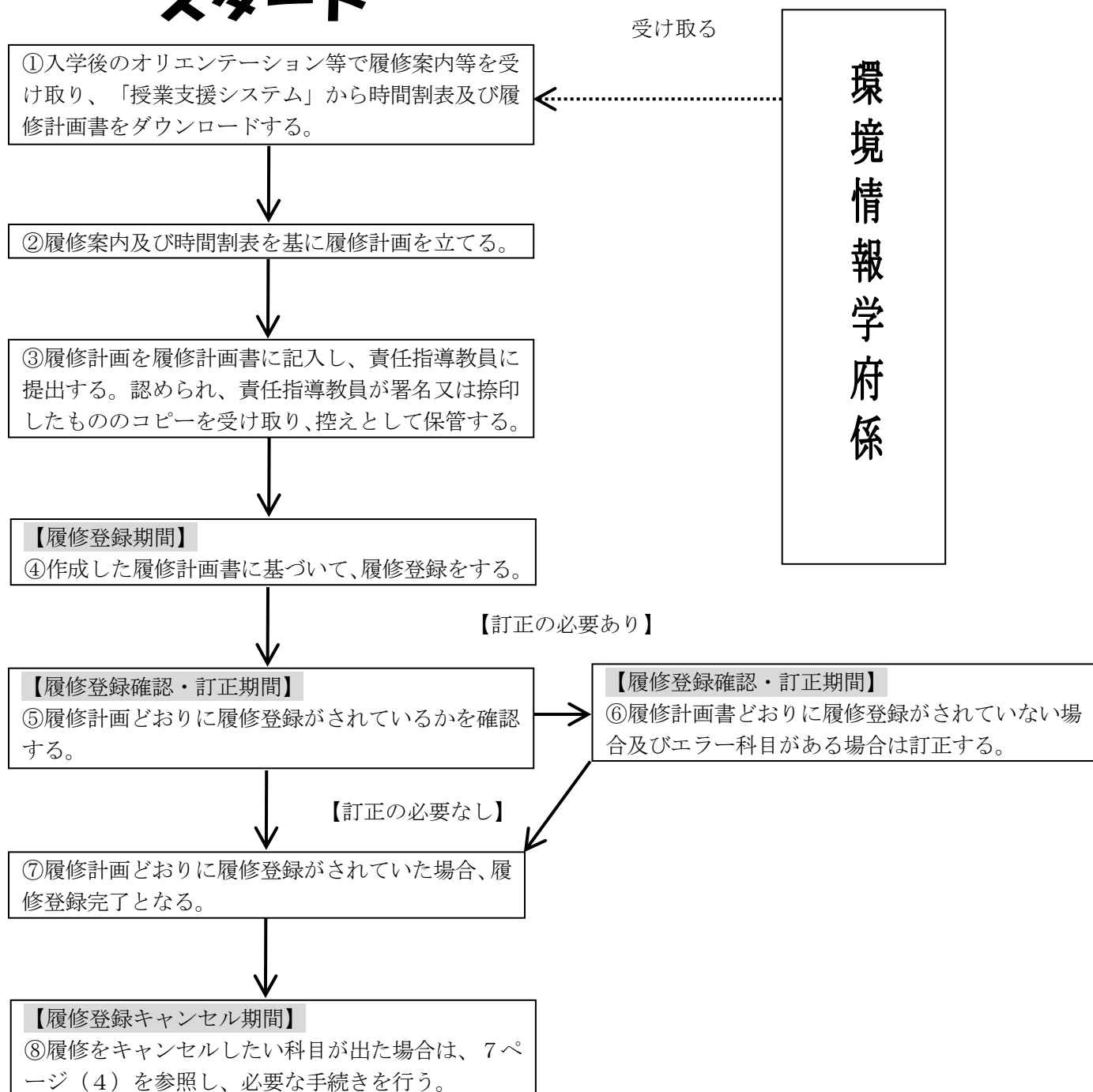
8 学修証明プログラムについて

学修証明プログラムは、体系的に開設された授業科目の単位を修得した学生に対し、その事実を称する学修証明書を交付することができるプログラムです。環境情報学府では、生態系を活かして地域振興を図る現場で活躍するのに必要な専門家としての知識とプロジェクト能力を持った高度実務人材を育成して認証することを目的とする学修証明プログラムを開設しています。詳細は別途配付する「学修証明プログラム「人間と生物圏のデザインによる社会発展」履修案内」を参照してください。

9 履修登録手続き流れ図

流れ図は便宜上大幅に簡略化しております。手続きを行う際は、6 ページ及び別途配付する「学務情報システム操作方法」を熟読の上で行ってください。

スタート



III 環境情報学府の指導教員（令和7年4月現在）

前期課程の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）を行うため、学生ごとに指導教員グループ（責任指導教員及び指導教員各1人）を定め、後期課程の授業及び研究指導を行うため、学生ごとに指導委員会（責任指導教員1人及び指導教員2人）を定めます。

原則として下記の表の自分が所属している専攻（以下「自専攻」という）の教員の中から学生の希望を考慮して決定されます。ただし、指導教員グループ及び指導委員会の指導教員の内、1人は自分が所属していない教育プログラム（以下「他教育プログラム」という）を担当する教員の中から選ばれます。

連携分野の教員を指導教員とする場合には、指導教員グループあるいは指導委員会に関連プログラムの教員を加えることにより、教務・教育面での円滑な指導ができるよう配慮されます。

人工環境専攻

教育プログラム (教育プログラムコード)	教 授	准 教 授	講 師 助 教
安全環境工学 (HG1)	雨宮 隆、荒牧賢治、伊藤暁彦、岡 泰資、笠井尚哉、亀屋隆志、熊崎美枝子、小林 剛、澁谷忠弘、高崎 緑、多々見純一、中井里史、中野 健、星野雄二郎、本藤祐樹、松宮正彦、松本真哉、三宅祐一、安本雅典	飯島志行、伊里友一朗、白石俊彦、藤井麻樹子、大久保光	金井典子 櫻井幹記
<連携分野>	倉持秀敏	畑山 健	
環境学 (HG2)	雨宮 隆、荒牧賢治、伊藤暁彦、亀屋隆志、小林 剛、多々見純一、中井里史、中野 健、星野雄二郎、本藤祐樹、松宮正彦、松本真哉、三宅祐一、安本雅典	飯島志行、遠藤 聡、奥山尚子、白石俊彦、高木 彩、藤井麻樹子、末宗達行	
社会環境 (HG3)	亀屋隆志、小林 剛、周佐喜和、中井里史、本藤祐樹、安本雅典	遠藤 聡、奥山尚子、高木 彩、末宗達行	

自然環境専攻

教育プログラム (教育プログラムコード)	教 授	准 教 授	講 師 助 教
生態学 (HH1)	石川正弘、及川敬貴、鏡味麻衣子、倉田薫子、酒井暁子、佐々木雄大、下出信次、中森泰三、平塚和之、山本伸次、和仁良二	尾形信一、中村達夫、吉田龍二、川津一隆	坂田ゆず 高山佳樹 中臺亮介
<連携分野>	小平秀一	塗谷睦生	
地球科学 (HH2)	石川正弘、鏡味麻衣子、酒井暁子、佐々木雄大、下出信次、中森泰三、平塚和之、筆保弘徳、山本伸次、和仁良二	尾形信一、中村達夫、吉田龍二、川津一隆	坂田ゆず 高山佳樹 中臺亮介
<連携分野>	小平秀一	塗谷睦生	
環境学術 (HH3)	及川敬貴、鏡味麻衣子、酒井暁子、佐々木雄大、中森泰三	川津一隆	坂田ゆず 中臺亮介

情報環境専攻

教育プログラム (教育プログラムコード)	教 授	准 教 授	講 師 助 教
情報学 (HJ1)	岡嶋克典、四方順司、島 圭介、白川真一、富井尚志、森 辰則、山田貴博、吉岡克成	白崎 実、田邊遼司、松井和己	村山太一
数理科学 (HJ2)	小関健太、四方順司、瀬川悦生、中本敦浩、野間 淳、原下秀士	牛越恵理佳、白崎 実、野崎雄太	
情報学術 (HJ3)	藤井友比呂、山田貴博	白崎 実、松井和己	

IV 履修基準及び科目

1 前期課程

(1) 科目と修了について

① 科目とプレレキジット制度

環境情報学府の前期課程の科目は、三専攻共通の学府共通科目（環境情報リテラシー科目及び環境情報ジェネリックスキル科目）及び専攻ごとに異なる専門教育科目（コア講義科目、専門講義科目、演習及びワークショップ）によって構成されています。また、学生の基礎的知識を補充するためにプレレキジット制度を設けています。

ア 環境情報リテラシー科目

分野の異なる教員の協働によって実施し、1つのテーマに対して学際的な文理融合・異分野融合的な視点で議論される様子を学生に示す科目です。

イ 環境情報ジェネリックスキル科目

高度専門職業人としての汎用な技能と環境情動的な視点による課題発見・課題解決の手法を学ぶために設けられた、他者との協働のためのコンピテンスを修得するための科目です。

環境情報イノベーション演習では、履修したリテラシー科目を基に初回のオリエンテーションでクラス分けを実施します。

ウ コア講義科目

各専攻で共通する専門知識と技能を修得するための科目です。

エ 専門講義科目

教育プログラム（学位）に応じた高度専門知識・技能を修得するための科目です。

オ 演習

学位取得を目指して専攻内の教員によって行われる研究指導で、指導教員グループによって学生の専門性を担保する指導を行います。責任指導教員が開講する演習（専攻共通演習及び教育プログラムごとの演習）を履修することが原則ですが、指導教員グループが認めた場合には、責任指導教員以外が開講する演習を履修することができます。その際は、履修登録期間内に「責任指導教員以外の演習履修申請書」を環境情報学府係に提出し、専攻の許可を得る必要があります。また、短縮修了を目指す場合には、標準的ではない時期に履修する必要がある場合がありますので、必ず事前に責任指導教員に相談してください。

カ ワークショップ

研究指導を行う演習と密接に結び付いて、文理融合・異分野融合の視座から自分の研究を吟味するために行われる研究成果の中間発表会です。各専攻から分野の異なる教員が参画し、人工環境、自然環境、情報環境という3つの視点から個々の学生の研究を評価します。短縮修了を目指す場合には、標準的ではない時期に履修する必要がある場合がありますので、必ず事前に責任指導教員に相談してください。

キ プレレキジット制度

指導教員グループが必要と判断した場合、学生は基礎的知識を補充するためにプレレキジット科目を履修することが推奨されます。履修が推奨される科目（全学教育科目及び教職科目を除く）は、学生ごとに指導教員グループが指示します。本科目の単位は修了に必要な単位として認定されません。

② 指導教員グループ

入学直後に指導教員グループを決定し、基本的には修了時まで研究指導を継続します。ただし、「ワークショップⅠ」における議論や演習の実施状況を考慮した結果、入学当初に設定した取得予定学位を変更することが妥当であると指導教員グループが判断した場合には、2年次に進学する際に自専攻内で教育プログラムを変更することができますので、責任指導教員に相談してください。

③ 研究指導計画書・研究計画書

学位論文の執筆に向け研究を順調に展開できるようにするため、各年次の初めに指導教員グループが様式「研究指導計画書・研究計画書」の「研究指導計画書」を作成し、学生に明示しますので、各学生は、「研究指導計画書」を踏まえ、「研究指導計画書・研究計画書」の「研究計画書」を作成し、責任指導教員に提出してください。「研究指導計画書・研究計画書」の作成要領及び様式「研究指導計画書・研究計画書」は、「授業支援システム」に掲載されているので、各自参照してください。

④ 修了関係

ア 修了要件

修了要件は、博士課程前期に2年以上在学し、教育プログラムごとに定められた履修方法により履修し、次の区分により30単位以上を修得し、修了に関わる科目のGPAが2.0以上（8ページ「(2) GPA制度について」参照）であり、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとします。

修士論文の作成に関して専攻ごとの規則がありますので、詳細は責任指導教員又は学務委員に確認してください。

科目	単位数
環境情報リテラシー科目	3単位以上 ※1
環境情報ジェネリックスキル科目	
・環境情報イノベーション演習 ・科学者・技術者のための研究倫理 ・博士進学とキャリアデザイン ・グローバル化演習 ・SXIP 国際協働実践演習	1単位以上 } 1単位以上 } 1単位 ※2
専門教育科目	以下の1～4を含んで24単位以上 ※3～5
1 コア講義科目 2 専門講義科目 3 演習 4 ワークショップ	2単位 8単位以上 8単位以上 ※6 2単位
プレレジット科目（指示された学生のみ）	
合 計	30単位以上

※1 博士課程前期と後期で同じ科目を開講しているため、博士課程前期の時に履修した科目を後期在学時に履修することはできません。博士課程後期に進学予定の学生は、未履修の科目を残しておいてください。

※2 SXIP 国際協働実践演習を単位取得した場合には、グローバル化演習の1単位取得とみなします。

- ※3 専門教育科目のうち1単位は、環境情報学府の三専攻の内、自分が所属していない二専攻（以下「他専攻」という）でのみ開講されている専門講義科目からの修得を必須とします。
- ※4 表中の1～4以外に、自専攻及び他専攻の専門講義科目並びに本学の環境情報学府以外の学府が開講する科目（※5）を専門教育科目に含めることができます。
- ※5 責任指導教員が認める場合には、単位互換を申し合わせている他の大学院及び本学大学院の他の研究科・学府（教育学研究科、国際社会科学府博士課程前期、理工学府、都市イノベーション学府）の科目又は副専攻プログラム授業科目の大学院全学教育科目（9ページ「副専攻プログラム授業科目一覧」参照）を履修し、講義科目に限り15単位を限度として、修得した単位を修了に必要な単位として認定することができます。希望する学生は、事前に授業担当教員の下承を得た後、作成した履修計画書に責任指導教員が署名又は捺印したもののコピーを、原則、履修訂正期間最終日の翌日までに環境情報学府係に提出してください。
- ※6 演習については指導教員グループの指導の下に履修してください。

イ 取得可能な学位及び取得方法

環境情報学府では、専攻及び教育プログラムによって履修する専門教育科目及び修了時に取得する学位の種類が異なります。16ページ「(3)科目一覧（前期課程）」から、13ページ「ア修了要件」を満たすように単位を取得する際に、自分が所属している教育プログラム（以下「自教育プログラム」という）に○がしてある専門講義科目及び演習の中から、それぞれ8単位以上ずつ履修してください。修了時に取得する学位は以下の表のとおりです。

例：人工環境専攻安全環境工学プログラムに所属している学生は、安全環境工学に○がしてある専門講義科目及び演習を、それぞれ8単位以上ずつ履修してください。

専攻名	教育プログラム	学位名
人工環境専攻	安全環境工学	修士（工学）
	環境学	修士（環境学）
	社会環境	修士（学術）
自然環境専攻	生態学	修士（環境学）
	地球科学	修士（理学）
	環境学術	修士（学術）
情報環境専攻	情報学	修士（情報学）
	数理科学	修士（理学）
	情報学術	修士（学術）

ウ 論文審査スケジュール

学位論文審査手続きとスケジュールは以下のとおりです。学位論文審査手続きの方法、具体的な日程、提出書類等の詳細は「授業支援システム」を確認してください。専攻内での審査手続き（予備審査等）及びスケジュールについては責任指導教員にお問い合わせください。

項目	時期（前後する可能性あり）	
	9月修了	3月修了
論文審査申請	5月	11月
論文提出期間	7月	1月
審査期間	8月	2月
教授会による修了認定	9月	3月
修了式	9月	3月

エ 学位論文評価基準

- ・当該研究領域における関連研究の現状や研究テーマに関連する専門知識を理解していること。（専門知識の理解度）
- ・課題の設定及びそれを解決するための方法論の選択や、仮説構築・検証方法などが妥当であること。（研究方法の妥当性）
- ・関連研究と比較して、新規性があり、当該分野の発展に貢献する研究成果が得られていること。（研究成果の独創性）
- ・上記３点を第三者が適切に評価できるように論文が構成されており、適切に表現されていること。（論文の構成・表現の適切性）

(2) 教育職員免許状の取得について

各専攻において取得可能な中学校教諭専修免許状（以下「中専免」という）及び高等学校教諭専修免許状（以下「高専免」という）並びにそれらの取得に必要な中学校教諭一種免許状（以下「中一種免」という）及び高等学校教諭一種免許状（以下「高一種免」という）は次の表のとおりです。必要な中一種免又は高一種免を取得している学生は、16ページ「(3) 科目一覧（前期課程）」の「備考」の列に「教免」と記載されている自身の所属専攻の科目の中から合計24単位以上修得することで、該当の専修免許状を取得することができます。

専攻名	取得可能な免許状の種類・教科	専修免許状取得に必要な免許状の種類・教科（基礎資格）
人工環境専攻	中専免（理科） 高専免（理科）	中一種免（理科） 高一種免（理科）
自然環境専攻	中専免（理科） 高専免（理科）	中一種免（理科） 高一種免（理科）
情報環境専攻	中専免（数学） 高専免（数学）	中一種免（数学） 高一種免（数学）

(3) 科目一覧（前期課程）

科目によって履修条件が課せられている場合があるので、履修登録を行う前に必ずシラバスを確認してください。また、各科目の第1回目の授業において担当教員から履修条件が説明される場合もあるので、担当教員の指示をよく理解した上で、履修登録を行ってください。

専門教育科目の演習の履修順序について、演習は科目名末尾がⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの順番で履修してください。ワークショップは、通常、4月入学者は第3タームに、10月入学者は第6タームに発表を行ってください。なお、ワークショップ・グローバル化演習・SXIP 国際協働実践演習については、学務情報システムでの履修登録手続きは不要です。

環境情報イノベーション演習については、Ⅰ、Ⅱのいずれか又は順番に関わらず両方の履修が認められています。

① 学府共通科目

ア 環境情報リテラシー科目 ※1

授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
イノベーション・マネジメント	野崎雄太，他	1・2		1	
安心社会のための福祉・医療	伊藤暁彦，他	1・2		1	
持続可能社会とFuture Earth	松宮正彦，他	1・2		1	
自然災害を考えるー過去から未来へ	高木彩，他	1・2		1	
社会インフラにおけるリスクと安全	飯島志行，他	1・2		1	
情報学・数理科学の手法	島圭介，他	1・2		1	
地球科学・生態学の手法	酒井暁子，他	1・2		1	
超スマート社会の構築に向けて	瀬川悦生，他	1・2		1	
最低必要単位数合計			0	3	

イ 環境情報ジェネリックスキル科目

	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		備考
				必修	選択	
	環境情報イノベーション演習Ⅰ	瀬川悦生，他	1・2		1	1単位
	環境情報イノベーション演習Ⅱ	未定	1・2		1	以上選択
研究の心得	科学者・技術者のための研究倫理	森辰則，他	1・2		1	1単位
	博士進学とキャリアデザイン	為近恵美	1・2		1	以上選択
	グローバル化演習 ※2	各教員	1・2		1	1単位
	SXIP国際共同実践演習 ※3	鈴木淳史，他	1・2		2	以上選択
最低必要単位数合計					3	

- ※1 春学期開講のリテラシー科目は、一年次生のみ抽選の可能性がありますが、事前に希望調査を行いますので、履修を希望する場合は忘れずに回答してください。回答していない場合、履修が認められない可能性があります。
- ※2 グローバル化演習は、ショートビジットや海外インターンシップなどの組み合わせによって単位を認定します。履修にあたっては、その時期や内容について責任指導教員とよく相談して計画を立ててください。
- ※3 SXIP 国際協働実践演習の履修を希望する場合は、事前に学務・国際戦略部グローバル推進企画係に相談してください。

② 専門教育科目

ア 人工環境専攻

授業科目の名称				教員名	配 当 年 次	単位数		備考
						必 修	選 択	
コア 講義科目	人工環境概論Ⅰ			松宮正彦, 他	1・2	1		
	人工環境概論Ⅱ			星野雄二郎, 他	1・2	1		
	最低必要単位数小計					2	0	
	安全 環境 工学	環 境 学	社 会 環 境					
専 門 講 義 科 目	○	○	○	イノベーション戦略論	安本雅典	1・2	1	
	○	○	○	ライフサイクルアセスメントⅠ	本藤祐樹	1	1	教免
	○	○	○	ライフサイクルアセスメントⅡ	本藤祐樹	1	1	教免
	○	○	○	環境疫学・健康リスク評価方法論	中井里史	1・2	1	
	○	○	○	知識マネジメントと標準化	安本雅典	1・2	1	
	○	○	○	物質・生命と環境	松本真哉, 他	1・2	1	教免
	○	○		化学物質環境動態解析	小林剛, 他	1・2	1	教免
	○	○		環境化学分析学	亀屋隆志, 他	1・2	1	教免
	○	○		環境材料設計学Ⅰ	荒牧賢治, 伊藤暁彦	1・2	1	教免
	○	○		環境材料設計学Ⅱ	荒牧賢治, 伊藤暁彦	1・2	1	教免
	○	○		環境材料分析手法Ⅰ	藤井麻樹子, 松本真哉	1・2	1	教免
	○	○		環境材料分析手法Ⅱ	藤井麻樹子, 松本真哉	1・2	1	教免
	○	○		都市環境管理学	小林剛, 他	1・2	1	
	○	○		化学物質曝露・リスク評価	三宅祐一	1・2	1	
	○	○		環境材料プロセス学Ⅰ	飯島志行	1・2	1	教免
	○	○		環境材料プロセス学Ⅱ	多々見純一	1・2	1	教免
		○	○	Sustainable Health and Environment	中井里史	1・2	1	
		○	○	環境排出管理学	亀屋隆志, 他	1・2	1	
		○	○	生態系評価学Ⅰ	佐々木雄大	1・2	1	※ 1
		○	○	地域政治経済システム論	遠藤聡	1・2	1	※ 1
		○	○	地域発展政策論	遠藤聡	1・2	1	※ 1
		○	○	脳科学の産業応用Ⅰ（基礎編）「脳と心の機能とはたらき」	萩原一平	1・2	1	
		○	○	脳科学の産業応用Ⅱ（応用編）「応用脳科学の産業展開」	萩原一平	1・2	1	
		○	○	イノベーションと公共政策の計量実証分析Ⅰ	奥山尚子	1・2	1	
		○	○	イノベーションと公共政策の計量実証分析Ⅱ	奥山尚子	1・2	1	
		○	○	リスク心理学Ⅰ	高木彩	1・2	1	
		○	○	リスク心理学Ⅱ	高木彩	1・2	1	
		○	○	ビジネスと知的財産法	末宗達行	1・2	1	
		○	○	デザイン創作と法	末宗達行	1・2	1	
	○			インテリジェント構造システム学	白石俊彦	1・2	1	
	○			化学反応プロセスのリスク管理Ⅰ	熊崎美枝子	1・2	1	
	○			化学反応プロセスのリスク管理Ⅱ	熊崎美枝子	1・2	1	
	○			火災の科学と防火技術Ⅰ	岡泰資	1・2	1	
	○			火災の科学と防火技術Ⅱ	岡泰資	1・2	1	
	○			環境機能物質科学Ⅰ	星野雄二郎, 松本真哉	1・2	1	教免
	○			環境機能物質科学Ⅱ	星野雄二郎, 松本真哉	1・2	1	教免

授業科目の名称				教員名	配 当 年 次	単 位 数 必 選	修 択	備考
	安全 環境 工学	環 境 学	社 会 環 境					
専門講義科目	○			環境物理化学Ⅰ	雨宮隆, 松宮正彦	1・2		1 教免
	○			環境物理化学Ⅱ	雨宮隆, 松宮正彦	1・2		1 教免
	○			機械システムのリスク評価と制御技術Ⅰ	澁谷忠弘	1・2		1
	○			機械システムのリスク評価と制御技術Ⅱ	澁谷忠弘	1・2		1
	○			産業災害事故の解析と 設備のリスクアセスメントⅠ	笠井尚哉	1・2		1
	○			産業災害事故の解析と 設備のリスクアセスメントⅡ	笠井尚哉	1・2		1
	○			地球システム科学Ⅰ	石川正弘	1・2		1 ※1
	○			非線形力学特論	中野健	1・2		1
	○			地震リスク評価学	畑山健	1・2		2
	○			高速反応科学	伊里友一朗	1・2		1
	○			有機材料工学論	高崎緑	1・2		1
	○			トライボロジー概論	大久保光	1・2		1
		○		イノベーション組織論	周佐喜和	1・2		1 ※1
		○		グローバルビジネスとイノベーション	周佐喜和	1・2		1 ※1
		○		社会老年学Ⅰ	令和7年度は開講せず	1・2		1 ※1
		○		社会老年学Ⅱ	令和7年度は開講せず	1・2		1 ※1
	最低必要単位数小計					0	8	
演習	○	○	○	人工環境演習Ⅰ	各教員	1		1 専攻共通 演習
	○	○	○	人工環境演習Ⅱ	各教員	1		1 専攻共通 演習
	○	○	○	人工環境演習Ⅲ	各教員	1		1 専攻共通 演習
	○	○	○	人工環境演習Ⅳ	各教員	1		1 専攻共通 演習
	○			安全環境工学演習Ⅰ	各教員	2		1 ※2
	○			安全環境工学演習Ⅱ	各教員	2		1 ※2
	○			安全環境工学演習Ⅲ	各教員	2		1 ※2
	○			安全環境工学演習Ⅳ	各教員	2		1 ※2
		○		環境学演習Ⅰ	各教員	2		1 ※2
		○		環境学演習Ⅱ	各教員	2		1 ※2
		○		環境学演習Ⅲ	各教員	2		1 ※2
		○		環境学演習Ⅳ	各教員	2		1 ※2
			○	社会環境演習Ⅰ	各教員	2		1 ※2
			○	社会環境演習Ⅱ	各教員	2		1 ※2
			○	社会環境演習Ⅲ	各教員	2		1 ※2
			○	社会環境演習Ⅳ	各教員	2		1 ※2
	○			インテリジェント構造システム学演習Ⅰ	白石俊彦	2		1 ※2
	○			インテリジェント構造システム学演習Ⅱ	白石俊彦	2		1 ※2
	○			インテリジェント構造システム学演習Ⅲ	白石俊彦	2		1 ※2
	○			インテリジェント構造システム学演習Ⅳ	白石俊彦	2		1 ※2
	○			ライフサイクルアセスメント演習Ⅰ	令和7年度は開講せず	2		1 教免、※2
	○			ライフサイクルアセスメント演習Ⅱ	令和7年度は開講せず	2		1 教免、※2
	○			ライフサイクルアセスメント演習Ⅲ	令和7年度は開講せず	2		1 教免、※2
	○			ライフサイクルアセスメント演習Ⅳ	令和7年度は開講せず	2		1 教免、※2
	○			化学反応プロセスのリスク管理演習Ⅰ	熊崎美枝子	2		1 ※2
	○			化学反応プロセスのリスク管理演習Ⅱ	熊崎美枝子	2		1 ※2
	○			化学反応プロセスのリスク管理演習Ⅲ	熊崎美枝子	2		1 ※2
	○			化学反応プロセスのリスク管理演習Ⅳ	熊崎美枝子	2		1 ※2

授業科目の名称					教員名	配 当 年 次	単位数		備考
	安全 環境工学	環境学	社会 環境	必修			選択		
演習	○			環境化学分析学演習Ⅰ	亀屋隆志, 他	2		1	教免、※2
	○			環境化学分析学演習Ⅱ	亀屋隆志, 他	2		1	教免、※2
	○			環境化学分析学演習Ⅲ	亀屋隆志, 他	2		1	教免、※2
	○			環境化学分析学演習Ⅳ	亀屋隆志, 他	2		1	教免、※2
	○			環境機能物質科学演習Ⅰ	星野雄二郎	2		1	教免、※2
	○			環境機能物質科学演習Ⅱ	星野雄二郎	2		1	教免、※2
	○			環境機能物質科学演習Ⅲ	星野雄二郎	2		1	教免、※2
	○			環境機能物質科学演習Ⅳ	星野雄二郎	2		1	教免、※2
	○			環境材料設計学演習Ⅰ	伊藤曉彦, 荒牧賢治	2		1	教免、※2
	○			環境材料設計学演習Ⅱ	伊藤曉彦, 荒牧賢治	2		1	教免、※2
	○			環境材料設計学演習Ⅲ	伊藤曉彦, 荒牧賢治	2		1	教免、※2
	○			環境材料設計学演習Ⅳ	伊藤曉彦, 荒牧賢治	2		1	教免、※2
	○			環境材料分析手法演習Ⅰ	藤井麻樹子, 松本真哉	2		1	教免、※2
	○			環境材料分析手法演習Ⅱ	藤井麻樹子, 松本真哉	2		1	教免、※2
	○			環境材料分析手法演習Ⅲ	藤井麻樹子, 松本真哉	2		1	教免、※2
	○			環境材料分析手法演習Ⅳ	藤井麻樹子, 松本真哉	2		1	教免、※2
	○			環境物理化学演習Ⅰ	雨宮隆, 松宮正彦	2		1	教免、※2
	○			環境物理化学演習Ⅱ	雨宮隆, 松宮正彦	2		1	教免、※2
	○			環境物理化学演習Ⅲ	雨宮隆, 松宮正彦	2		1	教免、※2
	○			環境物理化学演習Ⅳ	雨宮隆, 松宮正彦	2		1	教免、※2
	○			機械システムのリスク評価と 制御技術演習Ⅰ	澁谷忠弘	2		1	※2
	○			機械システムのリスク評価と 制御技術演習Ⅱ	澁谷忠弘	2		1	※2
	○			機械システムのリスク評価と 制御技術演習Ⅲ	澁谷忠弘	2		1	※2
	○			機械システムのリスク評価と 制御技術演習Ⅳ	澁谷忠弘	2		1	※2
	○			産業災害事故の解析と設備の リスクアセスメント演習Ⅰ	笠井尚哉	2		1	※2
	○			産業災害事故の解析と設備の リスクアセスメント演習Ⅱ	笠井尚哉	2		1	※2
	○			産業災害事故の解析と設備の リスクアセスメント演習Ⅲ	笠井尚哉	2		1	※2
	○			産業災害事故の解析と設備の リスクアセスメント演習Ⅳ	笠井尚哉	2		1	※2

授業科目の名称				教員名	配 当 年 次	単位数		備考
	安全 環境工学	環境学	社会 環境			必 修	選 択	
演習	○			高速反応科学演習Ⅰ	伊里友一朗	2	1	※2
	○			高速反応科学演習Ⅱ	伊里友一朗	2	1	※2
	○			高速反応科学演習Ⅲ	伊里友一朗	2	1	※2
	○			高速反応科学演習Ⅳ	伊里友一朗	2	1	※2
	最低必要単位数小計					0	8	
ワーク ショップ		人工環境ワークショップⅠ		専攻全教員	1	1		
		人工環境ワークショップⅡ		専攻全教員	2	1		
		最低必要単位数小計					2	0
最低必要単位数合計						4	16	

- ※1 人工環境専攻と自然環境専攻両方の専門講義科目なので、いずれかの専攻に所属している学生が当該科目を履修した場合は自専攻の専門講義科目として計算され、修了に1単位必要な「他専攻でのみ開講されている専門講義科目」としては計算されません。
- ※2 人工環境専攻に所属している学生の内、中専免(理科)又は高専免(理科)の取得を希望しないものは、専攻共通演習に加え、安全環境工学プログラムに所属している学生は安全環境工学演習を、環境学プログラムに所属している学生は環境学演習を、社会環境プログラムに所属している学生は社会環境演習を履修してください
- 中専免(理科)又は高専免(理科)の取得を希望する学生は、教育プログラムごとの演習として責任指導教員が担当する演習を最大4単位まで選択することが可能です。責任指導教員の開講している演習の備考欄に「教免」と書かれていない場合は、環境情報学府係に相談してください。
- ※3 人工環境専攻に所属している学生は、中専免(理科)又は高専免(理科)の取得に必要な科目として、自然環境専攻開講の「植物遺伝子工学Ⅰ」「植物遺伝子工学Ⅱ」「植物分子生理学Ⅰ」「植物分子生理学Ⅱ」「地球システム物質循環論Ⅰ」「地球システム物質循環論Ⅱ」「海洋生物環境学Ⅰ」「海洋生物環境学Ⅱ」「古生態学Ⅰ」「古生態学Ⅱ」「土壌生物学Ⅰ」「土壌生物学Ⅱ」を履修することが可能です。

イ 自然環境専攻

授業科目の名称				教員名	配 当 年 次	単位数		備考
						必 修	選 択	
コア 講義科目	自然環境概論Ⅰ			尾形信一, 他	1・2	1		
	自然環境概論Ⅱ			酒井暁子, 他	1・2	1		
	最低必要単位数小計					2	0	
	生態学	地球科学	環境学術					
専門 講義 科目	○	○	○	ユネスコエコパークや関連制度を活用した環境共生型地域の創出	酒井暁子	1・2	1	
	○	○	○	外来生物問題を解決するモデルと社会	令和7年度は開講せず	1・2	1	教免
	○	○	○	自然生態系設計学Ⅱ	令和7年度は開講せず	1・2	1	教免
	○	○	○	生態学：進化と環境適応	酒井暁子	1・2	1	教免
	○	○	○	生態学特別講義	酒井暁子, 他	1・2	2	教免、※1
	○	○	○	生態学特別実験	酒井暁子, 他	1・2	2	教免、※1
	○	○	○	生態系評価学Ⅰ	佐々木雄大	1・2	1	教免、※4
	○	○	○	生態系評価学Ⅱ	佐々木雄大	1・2	1	教免
	○	○	○	土壌生物学Ⅰ	中森泰三	1・2	1	教免
	○	○	○	湖と川の生態学Ⅰ	鏡味麻衣子	1・2	1	
	○	○	○	湖と川の生態学Ⅱ	鏡味麻衣子	1・2	1	
	○	○	○	複合系気候科学Ⅰ	吉田龍二	1・2	1	教免
	○	○	○	複合系気候科学Ⅱ	吉田龍二	1・2	1	教免
	○	○	○	寄生と共生の生態学Ⅰ	中基亮介	1・2	1	教免
	○	○	○	寄生と共生の生態学Ⅱ	中基亮介	1・2	1	教免
	○	○	○	生態レジリエンスのデータ科学Ⅰ	川津一隆	1・2	1	
	○	○	○	生態レジリエンスのデータ科学Ⅱ	川津一隆	1・2	1	
	○	○		海洋生物環境学Ⅰ	下出信次	1・2	1	教免
	○	○		海洋生物環境学Ⅱ	下出信次	1・2	1	教免
	○	○		古生態学Ⅰ	和仁良二	1・2	1	教免
	○	○		古生態学Ⅱ	和仁良二	1・2	1	教免
	○	○		植物遺伝子機能学Ⅰ	尾形信一	1・2	1	教免
	○	○		植物遺伝子機能学Ⅱ	尾形信一	1・2	1	教免
	○	○		植物遺伝子工学Ⅰ	平塚和之	1・2	1	教免
	○	○		植物遺伝子工学Ⅱ	平塚和之	1・2	1	教免
	○	○		植物分子生理学Ⅰ	中村達夫	1・2	1	教免
	○	○		植物分子生理学Ⅱ	中村達夫	1・2	1	教免
	○	○		地球システム科学Ⅰ	石川正弘	1・2	1	教免、※4
	○	○		地球システム科学Ⅱ	石川正弘	1・2	1	教免
	○	○		地球システム物質循環論Ⅰ	山本伸次	1・2	1	教免
	○	○		地球システム物質循環論Ⅱ	山本伸次	1・2	1	教免
	○	○		地球科学特別講義	石川正弘, 他	1・2	2	教免、※2
	○	○		地球科学特別実験	石川正弘, 他	1・2	2	教免、※2
	○	○		土壌生物学Ⅱ	中森泰三	1・2	1	教免
	○	○		分子生物学特別講義	平塚和之, 他	1・2	2	教免、※3
	○	○		分子生物学特別実験	平塚和之, 他	1・2	2	教免、※3
	○	○		海域地球物理学	小平秀一	1・2	1	
	○	○		生命高次適応科学	塗谷睦生	1・2	1	
	○	○		海洋の環境問題と地域社会	下出信次, 他	1・2	1	
	○		○	イノベーション組織論	周佐喜和	1・2	1	※4
	○		○	グローバルビジネスとイノベーション	周佐喜和	1・2	1	※4
	○		○	環境法Ⅰ	及川敬貴	1・2	1	
	○		○	環境法Ⅱ	及川敬貴	1・2	1	
	○		○	社会老年学Ⅰ	令和7年度は開講せず	1・2	1	※4
	○		○	社会老年学Ⅱ	令和7年度は開講せず	1・2	1	※4
	○		○	地域政治経済システム論	遠藤聡	1・2	1	※4
	○		○	地域発展政策論	遠藤聡	1・2	1	※4
最低必要単位数小計						0	8	

授業科目の名称				教員名	配 当 年 次	単位数		備考	
	生態学	地球科学	環境学術			必修	選択		
演習	○	○	○	自然環境演習Ⅰ	各教員	1		1	専攻共通演習
	○	○	○	自然環境演習Ⅱ	各教員	1		1	専攻共通演習
	○	○	○	自然環境演習Ⅲ	各教員	1		1	専攻共通演習
	○	○	○	自然環境演習Ⅳ	各教員	1		1	専攻共通演習
	○			生態学演習Ⅰ	各教員	2		1	
	○			生態学演習Ⅱ	各教員	2		1	
	○			生態学演習Ⅲ	各教員	2		1	
	○			生態学演習Ⅳ	各教員	2		1	
		○		地球科学演習Ⅰ	各教員	2		1	
		○		地球科学演習Ⅱ	各教員	2		1	
		○		地球科学演習Ⅲ	各教員	2		1	
		○		地球科学演習Ⅳ	各教員	2		1	
			○	環境学術演習Ⅰ	各教員	2		1	
			○	環境学術演習Ⅱ	各教員	2		1	
			○	環境学術演習Ⅲ	各教員	2		1	
			○	環境学術演習Ⅳ	各教員	2		1	
最低必要単位数小計							0	8	
ワーク ショップ			自然環境ワークショップⅠ		専攻全教員	1	1		
			自然環境ワークショップⅡ		専攻全教員	2	1		
			最低必要単位数小計				2	0	
最低必要単位数合計							4	16	

- ※1 生態学特別講義を履修した学生のみが生態学特別実験を履修することができます。なお、生態学特別講義を履修した場合、分子生物学特別講義及び地球科学特別講義を履修することはできません。
- ※2 地球科学特別講義を履修した学生のみが地球科学特別実験を履修することができます。なお、地球科学特別講義を履修した場合、生態学特別講義及び分子生物学特別講義を履修することはできません。
- ※3 分子生物学特別講義を履修した学生のみが分子生物学特別実験履修することができます。なお、分子生物学特別講義を履修した場合、生態学特別講義及び地球科学特別講義を履修することはできません。
- ※4 人工環境専攻と自然環境専攻両方の専門講義科目なので、いずれかの専攻に所属している学生が当該科目を履修した場合は自専攻の専門講義科目として計算され、修了に1単位必要な「他専攻でのみ開講されている専門講義科目」としては計算されません。

ウ 情報環境専攻

授業科目の名称				教員名	配 当 年 次	単位数		備考
コア 講義科目	情報環境概論Ⅰ			岡嶋克典, 他	1・2	1		
	情報環境概論Ⅱ			中本敦浩, 他	1・2	1		教免
	最低必要単位数小計					2	0	
	情報 学	数理 科学	情報 学術					
専門 講義 科目	○	○	○	情報数学特論Ⅰ	中本敦浩, 小関健太	1・2	1	教免
	○	○	○	情報数学特論Ⅱ	野間淳, 原下秀士	1・2	1	教免
	○	○	○	情報数学特論Ⅲ	牛越恵理佳, 白崎実	1・2	1	教免
	○	○	○	情報数学特論Ⅳ	瀬川悦生	1・2	1	教免
	○	○	○	数値シミュレーションの数理	山田貴博, 松井和己	1・2	1	教免
	○	○	○	数理アルゴリズム特論	四方順司	1・2	1	教免
	○	○	○	数理解析モデリングⅠ	松井和己, 山田貴博	1・2	1	教免
	○	○	○	数理解析モデリングⅡ	松井和己, 山田貴博	1・2	1	教免
	○	○	○	数理解析シミュレーション特論Ⅰ	白崎実	1・2	1	教免
	○	○	○	数理解析シミュレーション特論Ⅱ	白崎実	1・2	1	教免
	○	○	○	物理モデリングの数理	山田貴博, 松井和己	1・2	1	教免
	○		○	セキュリティ解析Ⅰ	吉岡克成	1・2	1	
	○		○	セキュリティ情報学Ⅰ	四方順司, 他	1・2	1	
	○		○	マルチメディア情報学Ⅰ	富井尚志, 他	1・2	1	
	○		○	最適化と探索Ⅰ	田邊遼司	1・2	1	
	○		○	人工知能特論Ⅰ	白川真一	1・2	1	
	○		○	人間情報処理Ⅰ	岡嶋克典	1・2	1	
	○		○	人間情報処理Ⅱ	岡嶋克典	1・2	1	
	○		○	言語情報応用論	森辰則	1・2	1	
	○		○	言語情報処理基礎論	森辰則	1・2	1	
	○		○	人間システム工学Ⅰ	島圭介	1・2	1	
		○	○	トポロジー特論Ⅰ	野崎雄太	1・2	1	教免
		○	○	解析学特論Ⅰ	牛越恵理佳	1・2	1	教免
		○	○	数理情報特論Ⅰ	小関健太, 中本敦浩	1・2	1	教免
		○	○	代数学特論Ⅰ	原下秀士, 野間 淳	1・2	1	教免
		○	○	代数幾何学特論Ⅰ	野間淳, 原下秀 士	1・2	1	教免
		○	○	離散数学特論Ⅰ	中本敦浩	1・2	1	教免
		○	○	量子アルゴリズム特論Ⅰ	瀬川悦生	1・2	1	教免
	○			セキュリティ解析Ⅱ	吉岡克成	1・2	1	
	○			セキュリティ情報学Ⅱ	吉岡克成, 他	1・2	1	
	○			セキュリティ情報学応用	令和7年度は開講せず	1・2	1	
	○			マルチメディア情報学Ⅱ	富井尚志, 他	1・2	1	
	○			最適化と探索Ⅱ	田邊遼司	1・2	1	
	○			人工知能特論Ⅱ	白川真一	1・2	1	
	○			人間システム工学Ⅱ	島圭介	1・2	1	

授業科目の名称					教員名	配 当 年 次	単位数		備考
	情報学	数理科学	情報学術	必修			選択		
専門講義科目	○			Web情報工学Ⅰ	村山太一	2		1	
	○			Web情報工学Ⅱ	村山太一	2		1	
		○		トポロジー特論Ⅱ	野崎雄太	1・2		1	教免
		○		解析学特論Ⅱ	牛越恵理佳	1・2		1	教免
		○		数理情報特論Ⅱ	小関健太, 中本敦浩	1・2		1	教免
		○		代数学特論Ⅱ	原下秀士, 野間淳	1・2		1	教免
		○		代数幾何学特論Ⅱ	野間淳, 原下秀士	1・2		1	教免
		○		離散数学特論Ⅱ	中本敦浩	1・2		1	教免
		○		量子アルゴリズム特論Ⅱ	瀬川悦生	1・2		1	教免
			○	理論言語学基盤論Ⅰ	藤井友比呂	1・2		1	
			○	理論言語学基盤論Ⅱ	藤井友比呂	1・2		1	
			○	理論言語学特論Ⅰ	藤井友比呂	1・2		1	
			○	理論言語学特論Ⅱ	藤井友比呂	1・2		1	
	最低必要単位数小計							0	8
演習	○	○	○	情報環境演習Ⅰ	各教員	1		1	専攻共通演習、※1
	○	○	○	情報環境演習Ⅱ	各教員	1		1	専攻共通演習、※1
	○	○	○	情報環境演習Ⅲ	各教員	1		1	専攻共通演習、※1
	○	○	○	情報環境演習Ⅳ	各教員	1		1	専攻共通演習、※1
	○	○	○	情報数学特論演習Ⅰ	中本敦浩, 小関健太	1		1	教免、※1
	○	○	○	情報数学特論演習Ⅱ	原下秀士, 野間淳	1		1	教免、※1
	○	○	○	情報数学特論演習Ⅲ	牛越恵理佳, 白崎実	1		1	教免、※1
	○	○	○	情報数学特論演習Ⅳ	瀬川悦生	1		1	教免、※1
	○			情報学演習Ⅰ	各教員	2		1	
	○			情報学演習Ⅱ	各教員	2		1	
	○			情報学演習Ⅲ	各教員	2		1	
	○			情報学演習Ⅳ	各教員	2		1	
		○		数理科学演習Ⅰ	各教員	2		1	
		○		数理科学演習Ⅱ	各教員	2		1	
		○		数理科学演習Ⅲ	各教員	2		1	
		○		数理科学演習Ⅳ	各教員	2		1	
			○	情報学術演習Ⅰ	各教員	2		1	
			○	情報学術演習Ⅱ	各教員	2		1	
			○	情報学術演習Ⅲ	各教員	2		1	
			○	情報学術演習Ⅳ	各教員	2		1	
	○	○	○	数理解物理シミュレーション特論演習Ⅰ	白崎実	2		1	教免
	○	○	○	数理解物理シミュレーション特論演習Ⅱ	白崎実	2		1	教免
	○	○	○	数理解物理シミュレーション特論演習Ⅲ	白崎実	2		1	教免
	○	○	○	数理解物理シミュレーション特論演習Ⅳ	白崎実	2		1	教免
		○		トポロジー特論演習Ⅰ	野崎雄太	2		1	教免
		○		トポロジー特論演習Ⅱ	野崎雄太	2		1	教免
		○		トポロジー特論演習Ⅲ	野崎雄太	2		1	教免
		○		トポロジー特論演習Ⅳ	野崎雄太	2		1	教免

授業科目の名称				教員名	配 当 年 次	単位数		備考	
						必 修	選 択		
	情 報 学	数 理 科 学	情 報 学 術						
演 習		○		解析学特論演習Ⅰ	牛越恵理佳	2	1	教免	
		○		解析学特論演習Ⅱ	牛越恵理佳	2	1	教免	
		○		解析学特論演習Ⅲ	牛越恵理佳	2	1	教免	
		○		解析学特論演習Ⅳ	牛越恵理佳	2	1	教免	
		○		数理情報特論演習Ⅰ	小関健太, 中本敦浩	2	1	教免	
		○		数理情報特論演習Ⅱ	小関健太, 中本敦浩	2	1	教免	
		○		数理情報特論演習Ⅲ	小関健太, 中本敦浩	2	1	教免	
		○		数理情報特論演習Ⅳ	小関健太, 中本敦浩	2	1	教免	
		○		代数学特論演習Ⅰ	原下秀士,野間 淳	2	1	教免	
		○		代数学特論演習Ⅱ	原下秀士,野間 淳	2	1	教免	
		○		代数学特論演習Ⅲ	原下秀士,野間 淳	2	1	教免	
		○		代数学特論演習Ⅳ	原下秀士,野間 淳	2	1	教免	
		○		代数幾何学特論演習Ⅰ	野間淳,原下秀 士	2	1	教免	
		○		代数幾何学特論演習Ⅱ	野間淳,原下秀 士	2	1	教免	
		○		代数幾何学特論演習Ⅲ	野間淳,原下秀 士	2	1	教免	
		○		代数幾何学特論演習Ⅳ	野間淳,原下秀 士	2	1	教免	
		○		離散数学特論演習Ⅰ	中本敦浩	2	1	教免	
		○		離散数学特論演習Ⅱ	中本敦浩	2	1	教免	
		○		離散数学特論演習Ⅲ	中本敦浩	2	1	教免	
		○		離散数学特論演習Ⅳ	中本敦浩	2	1	教免	
		○		量子アルゴリズム特論演習Ⅰ	瀬川悦生	2	1	教免	
		○		量子アルゴリズム特論演習Ⅱ	瀬川悦生	2	1	教免	
		○		量子アルゴリズム特論演習Ⅲ	瀬川悦生	2	1	教免	
		○		量子アルゴリズム特論演習Ⅳ	瀬川悦生	2	1	教免	
最低必要単位数小計							0	8	
ワ ー ク シ ョ ッ プ			情報環境ワークショップⅠ		専攻全教員	1	1		
			情報環境ワークショップⅡ		専攻全教員	2	1		
			最低必要単位数小計					2	0
最低必要単位数合計							4	16	

※1 情報環境専攻に所属している学生の内、中専免(数学)又は高専免(数学)の取得を希望する学生は、専攻共通演習として「情報数学特論演習Ⅰ～Ⅳ」を履修してください。

※2 情報環境専攻に所属している学生は、中専免(数学)又は高専免(数学)の取得に必要な科目として、理工学府開講の「先進数理科学 確率A」「先進数理科学 確率B」「先進数理科学 統計」「数理科学 確率・統計」「数理科学 データ・サイエンス」を履修することができます。

③ 環境情報学府で先進実践学環に提供している授業科目で修了要件とならない授業科目

博士課程前期に所属している学生は、先進実践学環の科目を履修することができます。なお、以下に掲載している科目群については修了要件となりません。

環境情報学府で先進実践学環に提供している授業科目で修了要件とならない授業科目一覧

授業科目の名称	教員名	単位数
材料と加工	坂本 智	1
精密砥粒加工学	坂本 智	1
被服環境学Ⅰ	薩本 弥生	1
被服環境学Ⅱ	薩本 弥生	1
古海洋学	河潟 俊吾	1
海洋地質学	河潟 俊吾	1
気象学	中野 満寿男	1
台風力学	中野 満寿男	1
植物系統分類学	倉田 薫子	1
生物地理学Ⅰ	倉田 薫子	1
社会の中の数理Ⅰ	茨木 貴徳	1
社会の中の数理Ⅱ	茨木 貴徳	1
英語学講義	田中 秀毅	1
対照言語学講義	田中 秀毅	1
幾何学特論Ⅰ	山形 紗恵子	1
幾何学特論Ⅱ	山形 紗恵子	1

2 後期課程

(1) 科目と修了について

① 科目とプレレキジット制度

環境情報学府の後期課程の科目は、三専攻共通の学府共通科目（環境情報リテラシー科目、博士学生のためのキャリアデザイン及び環境情報ジェネリックスキル科目）及び専攻ごとに異なる専門教育科目（演習及びワークショップ）によって構成されています。また、学生の基礎的知識を補充するためにプレレキジット制度を設けています。

ア 環境情報リテラシー科目

分野の異なる教員の協働によって実施し、1つのテーマに対して学際的な文理融合・異分野融合的な視点で議論される様子を学生に示す科目です。

イ 博士学生のためのキャリアデザイン

高度な教育・研究人材がアカデミアだけでなく、広く社会で活躍するために必要となる知識や素養を身に着けると共に、社会で求められる博士人材像を知り、自身のキャリアパス設計に役立てるための科目です。

ウ 環境情報ジェネリックスキル科目

各分野を牽引するリーダー的な人材に必要な汎用な技能と環境情動的な視点による課題発見・課題解決の手法を学ぶために設けられた、他者との協働のためのコンピテンスを修得するための科目です。

環境情報イノベーション特別演習の履修については、オリエンテーション時に説明を行います。

エ 演習

学位取得を目指して専攻内の教員によって行われる研究指導で、指導委員会によって学生の専門性を担保する指導を行います。責任指導教員が開講する演習(教育プログラムごとの演習)を履修することが原則ですが、指導委員会が認めた場合には、責任指導教員以外が開講する演習を履修することができます。その際は、履修登録期間内に「責任指導教員以外の演習履修申請書」を環境情報学府係に提出し、専攻の許可を得る必要があります。また、短縮修了を目指す場合には、標準的ではない時期に履修する必要がある場合がありますので、必ず事前に責任指導教員に相談してください。

オ ワークショップ

研究指導を行う演習と密接に結び付いて、文理融合・異分野融合の視座から自分の研究を吟味するために行われる研究成果の中間発表会です。各専攻から分野の異なる教員が参画し、人工環境、自然環境、情報環境という3つの視点から個々の学生の研究を評価します。また、博士課程前期の学生も含めて行われるワークショップの運営に参画します。短縮修了を目指す場合には、標準的ではない時期に履修する必要がある場合があるので、必ず事前に責任指導教員に相談してください。

カ プレレキジット制度

指導委員会が必要と判断した場合、学生は基礎的知識を補充するためにプレレキジット科目を履修することが推奨されます。履修が推奨される科目（全学教育科目及び教職科目を除く）は、学生ごとに指導委員会が指示します。本科目の単位は修了に必要な単位として認定されません。

② 指導委員会

入学直後に指導委員会を設置し、基本的には修了時まで研究指導を継続します。ただし、「特別ワークショップⅠ」における議論や演習の実施状況を考慮した結果、入学当初に設定した取得予定学位を変更することが妥当であると指導委員会が判断した場合には、2年次に進学する際に自専攻内で教育プログラムを変更することができますので、責任指導教員に相談してください。

③ 研究指導計画書・研究計画書

学位論文の執筆に向け研究を順調に展開できるようにするため、各年次の初めに指導委員会が様式「研究指導計画書・研究計画書」の「研究指導計画書」を作成し、学生に明示しますので、各学生は、「研究指導計画書」を踏まえ、「研究指導計画書・研究計画書」の「研究計画書」を作成し、責任指導教員に提出してください。「研究指導計画書・研究計画書」の作成要領及び様式「研究指導計画書・研究計画書」は、「授業支援システム」に掲載されているので、各自参照してください。

④ 指導委員会報告書

学生は、ワークショップ終了後に、指導委員会報告書（指定用紙有）の研究進捗状況欄を作成し、責任指導教員に提出する必要があります。責任指導教員は、単位の取得及び学位論文研究の進捗状況を把握し、評価欄に所見を記載するとともに学生の修学及び研究が適切に進むよう研究指導等を行います。

⑤ 修了関係

ア 修了要件

修了要件は、博士課程後期に3年以上在学し、教育プログラムごとに定められた履修方法により履修し、次の区分により13単位以上を修得し、修了に関わる科目のGPAが2.0以上（8ページ「(2) GPA制度について」参照）であり、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとします。

博士論文の作成に関して専攻ごとの規則がありますので、詳細は責任指導教員又は学務委員に確認してください。

科目	単位数
環境情報リテラシー科目 博士学生のためのキャリアデザイン	} 1単位以上 ※1
環境情報ジェネリックスキル科目	
・環境情報イノベーション特別演習 ・グローバル化特別演習	1単位以上 1単位
専門教育科目	以下の1、2を含んで10単位以上 ※2
1 演習	8単位以上 ※3
2 ワorkshop	2単位
プレレキジット科目（指示された学生のみ）	
合 計	13単位以上

※1 博士学生のためのキャリアデザインの履修が困難な学生は、環境情報リテラシー科目を履修してください。なお、環境情報リテラシー科目を履修する場合、環境情報学府博士課程前期修了生は、博士課程前期在学時に履修していない科目を履修してください。

※2 責任指導教員が認める場合には、単位互換を申し合わせている他の大学院、環境情報学府の前期課程及び本学大学院の他の研究科又は学府（教育学研究科、国際社会科学府博士課程後期、理工学府、都市イノベーション学府）の科目を履修することができます。希望する学生は、**事前に授業担当教員の下承を得た後、作成した履修計画書に責任指導教員が署名又は捺印したもののコピーを、速やかに環境情報学府係に提出してください。**

※3 演習については指導委員会の指導の下に履修してください。

イ 取得可能な学位

環境情報学府では、専攻及び教育プログラムによって履修する専門教育科目及び修了時に取得する学位の種類が異なります。30ページ「(2)科目一覧(後期課程)」から、28ページ「ア修了要件」を満たすように単位を取得する際に、自教育プログラムに○がしてある演習の中から8単位以上履修してください。修了時に取得する学位は次の表のとおりです。

例：人工環境専攻安全環境工学プログラムに所属している学生は、安全環境工学に○がしてある演習を8単位以上履修してください。

専攻名	教育プログラム	学位名
人工環境専攻	安全環境工学	博士(工学)
	環境学	博士(環境学)
	社会環境	博士(学術)
自然環境専攻	生態学	博士(環境学)
	地球科学	博士(理学)
	環境学術	博士(学術)
情報環境専攻	情報学	博士(情報学)
	数理科学	博士(理学)
	情報学術	博士(学術)

ウ 論文審査スケジュール

学位論文審査手続きとスケジュールは以下のとおりです。学位論文審査手続きの方法、具体的な日程、提出書類等の詳細は「授業支援システム」を確認してください。専攻内での審査手続き(予備審査等)及びスケジュールについては指導教員にお問い合わせください。

項目	時期(前後する可能性あり)			
	6月修了	9月修了	12月修了	3月修了
論文審査申請	1月	4月	6月	10月
論文提出期間	4月	6月	10月	1月
審査期間	4月	7月	10月	1月
教授会による修了認定	6月	9月	12月	3月
修了式	6月	9月	12月	3月

エ 学位論文評価基準

以下の4つの観点に加えて、博士論文の一部が国内外の審査制の学術専門誌に掲載を認められていることを要件とする。

- ・当該研究領域における関連研究の現状や研究テーマに関連する専門知識を十分理解していること。(専門知識の理解度)
- ・課題の設定及びそれを解決するための方法論の選択並びに仮説構築・検証方法等が妥当であること。(研究方法の妥当性)
- ・関連研究と比較して、新規性があり、当該分野の発展や新規研究分野の開設につながる独創的に貢献する研究成果が得られていること。(研究成果の独創性)
- ・上記3点を第三者が適切に評価できるように論文が構成されており、適切に表現されていること。(論文の構成・表現の適切性)

(2) 科目一覧（後期課程）

科目によって履修条件が課せられている場合があるので、履修登録を行う前に必ずシラバスを確認してください。また、各科目の第1回目の授業において担当教員から履修条件が説明される場合もあるので、担当教員の指示をよく理解した上で、履修登録を行ってください。

専門教育科目の演習の履修順序について、科目名末尾がⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷの順番で履修してください。ワークショップは、通常、4月入学者は第3タームに、10月入学者は第6タームに発表を行ってください。

なお、ワークショップ・グローバル化特別演習については、学務情報システムでの履修登録手続きは不要です。

環境情報イノベーション特別演習については、Ⅰ、Ⅱいずれか又は順番に関らず両方の履修が認められています。

① 学府共通科目

ア 博士学生のためのキャリアデザイン

環境情報リテラシー科目 ※1

	授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		備考
				必修	選択	
博士学生のためのキャリアデザイン	博士学生のためのキャリアデザインⅠ	為近恵美	1～3		1	1単位以上選択
	博士学生のためのキャリアデザインⅡ	為近恵美	1～3		1	
環境情報リテラシー科目	イノベーション・マネジメント	野崎雄太, 他	1～3		1	
	安心社会のための福祉・医療	伊藤暁彦, 他	1～3		1	
	持続可能社会とFuture Earth	松宮正彦, 他	1～3		1	
	自然災害を考える一過去から未来へ	高木彩, 他	1～3		1	
	社会インフラにおけるリスクと安全	飯島志行, 他	1～3		1	
	情報学・数理科学の手法	島圭介, 他	1～3		1	
	地球科学・生態学の手法	酒井暁子, 他	1～3		1	
	超スマート社会の構築に向けて	瀬川悦生, 他	1～3		1	
最低必要単位数合計				0	1	

イ 環境情報ジェネリックスキル科目

授業科目の名称	教員名	配当年次	単位数		備考
			必修	選択	
環境情報イノベーション特別演習Ⅰ	瀬川悦生, 他	1～3		1	1単位以上選択
環境情報イノベーション特別演習Ⅱ	未定	1～3		1	
グローバル化特別演習	各教員	1～3	1		※1
最低必要単位数合計			1	1	

※1 春学期開講のリテラシー科目は、一年次生のみ抽選の可能性あります。事前に希望調査を行いますので、履修を希望する場合は忘れずに回答してください。回答していない場合、履修が認められない可能性があります。

※2 グローバル化特別演習は、ショートビジットや海外インターンシップなどの組み合わせによって単位を認定します。履修にあたっては、その時期や内容について責任指導教員とよく相談して計画を立ててください。

② 専門教育科目

ア 人工環境専攻

授業科目の名称				教員名	配 当 年 次	単位数		備考	
	必 修	選 択							
演習	安全 環境工学	環境学	社会 環境						
	○			安全環境工学特別演習Ⅰ	各教員	1		1	
	○			安全環境工学特別演習Ⅱ	各教員	1		1	
	○			安全環境工学特別演習Ⅲ	各教員	1		1	
	○			安全環境工学特別演習Ⅳ	各教員	1		1	
	○			安全環境工学特別演習Ⅴ	各教員	2		1	
	○			安全環境工学特別演習Ⅵ	各教員	2		1	
	○			安全環境工学特別演習Ⅶ	各教員	2		1	
	○			安全環境工学特別演習Ⅷ	各教員	2		1	
		○		環境学特別演習Ⅰ	各教員	1		1	
		○		環境学特別演習Ⅱ	各教員	1		1	
		○		環境学特別演習Ⅲ	各教員	1		1	
		○		環境学特別演習Ⅳ	各教員	1		1	
		○		環境学特別演習Ⅴ	各教員	2		1	
		○		環境学特別演習Ⅵ	各教員	2		1	
		○		環境学特別演習Ⅶ	各教員	2		1	
		○		環境学特別演習Ⅷ	各教員	2		1	
			○	社会環境特別演習Ⅰ	各教員	1		1	
			○	社会環境特別演習Ⅱ	各教員	1		1	
			○	社会環境特別演習Ⅲ	各教員	1		1	
			○	社会環境特別演習Ⅳ	各教員	1		1	
			○	社会環境特別演習Ⅴ	各教員	2		1	
			○	社会環境特別演習Ⅵ	各教員	2		1	
			○	社会環境特別演習Ⅶ	各教員	2		1	
		○	社会環境特別演習Ⅷ	各教員	2		1		
最低必要単位数小計							0	8	
ワーク ショップ			人工環境特別ワークショップⅠ		専攻全教員	1	1		
			人工環境特別ワークショップⅡ		専攻全教員	2	1		
			最低必要単位数小計					2	0
最低必要単位数合計							2	8	

イ 自然環境専攻

授業科目の名称					教員名	配 当 年 次	単位数		備 考
	生 態 学	地 球 科 学	環 境 学 術	必 修			選 択		
演 習	○			生態学特別演習Ⅰ	各教員	1		1	
	○			生態学特別演習Ⅱ	各教員	1		1	
	○			生態学特別演習Ⅲ	各教員	1		1	
	○			生態学特別演習Ⅳ	各教員	1		1	
	○			生態学特別演習Ⅴ	各教員	2		1	
	○			生態学特別演習Ⅵ	各教員	2		1	
	○			生態学特別演習Ⅶ	各教員	2		1	
	○			生態学特別演習Ⅷ	各教員	2		1	
		○		地球科学特別演習Ⅰ	各教員	1		1	
		○		地球科学特別演習Ⅱ	各教員	1		1	
		○		地球科学特別演習Ⅲ	各教員	1		1	
		○		地球科学特別演習Ⅳ	各教員	1		1	
		○		地球科学特別演習Ⅴ	各教員	2		1	
		○		地球科学特別演習Ⅵ	各教員	2		1	
		○		地球科学特別演習Ⅶ	各教員	2		1	
		○		地球科学特別演習Ⅷ	各教員	2		1	
			○	環境学術特別演習Ⅰ	各教員	1		1	
			○	環境学術特別演習Ⅱ	各教員	1		1	
			○	環境学術特別演習Ⅲ	各教員	1		1	
			○	環境学術特別演習Ⅳ	各教員	1		1	
			○	環境学術特別演習Ⅴ	各教員	2		1	
			○	環境学術特別演習Ⅵ	各教員	2		1	
			○	環境学術特別演習Ⅶ	各教員	2		1	
			○	環境学術特別演習Ⅷ	各教員	2		1	
最低必要単位数小計							0	8	
ワ ー ク シ ョ ッ プ			自然環境特別ワークショップⅠ		専攻全教員	1	1		
			自然環境特別ワークショップⅡ		専攻全教員	2	1		
			最低必要単位数小計					2	0
最低必要単位数合計							2	8	

ウ 情報環境専攻

授業科目の名称					教員名	配 当 年 次	単位数		備考
							必 修	選 択	
	情 報 学	数 理 科 学	情 報 学 術						
演 習	○			情報学特別演習Ⅰ	各教員	1		1	
	○			情報学特別演習Ⅱ	各教員	1		1	
	○			情報学特別演習Ⅲ	各教員	1		1	
	○			情報学特別演習Ⅳ	各教員	1		1	
	○			情報学特別演習Ⅴ	各教員	2		1	
	○			情報学特別演習Ⅵ	各教員	2		1	
	○			情報学特別演習Ⅶ	各教員	2		1	
	○			情報学特別演習Ⅷ	各教員	2		1	
		○		数理科学特別演習Ⅰ	各教員	1		1	
		○		数理科学特別演習Ⅱ	各教員	1		1	
		○		数理科学特別演習Ⅲ	各教員	1		1	
		○		数理科学特別演習Ⅳ	各教員	1		1	
		○		数理科学特別演習Ⅴ	各教員	2		1	
		○		数理科学特別演習Ⅵ	各教員	2		1	
		○		数理科学特別演習Ⅶ	各教員	2		1	
		○		数理科学特別演習Ⅷ	各教員	2		1	
			○	情報学術特別演習Ⅰ	各教員	1		1	
			○	情報学術特別演習Ⅱ	各教員	1		1	
			○	情報学術特別演習Ⅲ	各教員	1		1	
			○	情報学術特別演習Ⅳ	各教員	1		1	
			○	情報学術特別演習Ⅴ	各教員	2		1	
			○	情報学術特別演習Ⅵ	各教員	2		1	
			○	情報学術特別演習Ⅶ	各教員	2		1	
			○	情報学術特別演習Ⅷ	各教員	2		1	
	最低必要単位数小計							0	8
ワーク ショップ			情報環境特別ワークショップⅠ		専攻全教員	1	1		
			情報環境特別ワークショップⅡ		専攻全教員	2	1		
			最低必要単位数小計					2	0
最低必要単位数合計							2	8	

V 社会人学生の履修等に関する特例について

環境情報学府では、入学後も社会人の身分を有する学生（以下「社会人学生」という）に対して、次のように履修等に関する特例を実施しています。

1 長期履修について

長期履修学生とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限（前期課程2年、後期課程3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に履修して、修了することが認められた学生を指します。

長期履修学生に認定された学生は、一般の学生とは異なり、就学年数に関係なく、標準修業年限分の授業料で修学することができます。

長期履修学生に認定された学生は「長期履修学生在学期間変更願」を環境情報学府係に提出し、承認されることで、一回を限度に在学期間の延長又は短縮をすることができます。ただし標準修業年限未滿に短縮したり、前期課程4年、後期課程6年を超えて延長したりすることはできません。延長又は短縮が承認された後は、再延長や再短縮することはできません。

手続きを行う時期は、延長の申請は当初在学期間満了日の3ヶ月以上前、短縮の申請は「論文提出票」提出時を原則とします。

在学期間延長が許可された場合、標準修業年限分の授業料から既に納付済みの授業料を差し引いた金額を、延長後の在学期間の年数で除した額を納付することになります。在学期間の短縮が許可された場合、標準修業年限分の授業料から既に納付済みの授業料を差し引いた分を一括で納付することになります。

2 修学について

標準修業年限の年数で修了しようとする学生については、原則として全日通学とします。

標準修業年限の年数で修了に必要な講義等の履修が困難な学生は、指導教員グループ又は指導委員会の指導の下に、修業年限を超える年数（前期課程3～4年、後期課程4～6年）の履修計画書をあらかじめ提出してください。

3 履修について

講義科目については、時間割で指定された曜日・時限に履修する必要がありますが、演習及びワークショップについては開講時間について配慮することができるので、指導教員グループ、指導委員会又は各専攻の学務委員に相談してください。

VI 教務関係諸手続

1 証明書の発行について

証明書の発行方法は、証明書自動発行機での発行又は環境情報学府係への申請の二通りがあります。それぞれ交付可能な書類が異なりますので下図を参照してください。

(1) 発行方法別発行可能証明書の種類、発行日数

受付窓口等	証明書の種類		発行日数
証明書自動発行機	和文・英文	在学証明書 成績証明書 修了見込証明書	即 日
	和文	学生旅客運賃割引証（学割証） 健康診断証明書	
環境情報学府係	和文・英文	修了証明書 在籍証明書	3 日後※ （休業日を除く）

※即日交付は受けません。

(2) 注意事項

① 証明書自動発行機での発行の場合

- ・発行時に学生証が必要になります。
- ・設置場所は学生センター、経営学部事務棟、理工学部事務棟の3箇所です。

② 環境情報学府係への申請の場合

- ・環境情報学府係に「証明書交付申請書」がありますので、必要事項を記入の上、提出してください。
- ・受け取り時に、学生証を提示してください。

2 休学、復学、退学、他大学受験について

(1) 休学

- ① 病気、その他の事由により休学を希望する場合は、「横浜国立大学休学許可の基準」に従い、休学願（父母等連署）を提出し、学長の許可を得て休学することができます。（事前に「授業支援システム」からダウンロードし、休学期間開始日の1ヶ月程度前に手続を行ってください。）
- ② 病気のため、修学が不適当だと認められる学生に対しては、休学を命ずることがあります。（学則第50条を参照。）
- ③ 休学を許可され、その休学期間が満了してもなお、その理由が消滅しない学生は、更に期間の延長を願い出ることができます。期間を延長する場合は、あらかじめ環境情報学府係に申し出て用紙の交付を受け、休学期間満了日の1ヶ月程度前に延長の手続を行ってください。休学期間を延長しない場合は休学期間終了日の翌日から復学となり、授業料の納付が必要となります。
- ④ 休学期間は、在学期間に算入されません。
- ⑤ 休学期間は、通算して前期課程にあつては2年、後期課程にあつては3年を超えることができません。
- ⑥ 休学期間中は、「履修登録」及び「学位論文審査申請」はできません。

《参考》横浜国立大学休学許可の基準（最近改正 平成 27 年 12 月 16 日）

第 1 横浜国立大学学則(以下「学則」という。)第 50 条第 4 項の規定に基づく休学の許可は、次の各号のいずれかに該当し、引き続き 3 か月以上欠席を要する者について許可するものとする。

- (1) 本人の疾病又は負傷のとき。(医師の診断書を必要とする。)
- (2) 本人の出産又は本人の子(法律上の養子を含む。)が 3 歳に達する日を限度として育児に従事するとき。(出産に関する医師の診断書等を必要とする。)
- (3) 学資の支弁が困難なとき。(理由書及び事実を証明する書類を必要とする。)
- (4) 世帯主その他の死亡等により一時的に家業に従事するとき。(理由書及びそれを証明する書類を必要とする。)
- (5) 家族を看病又は介護するとき。(看病については理由書及びそれを証明する医師の診断書を必要とする。介護については理由書及び証明書を必要とする。)
- (6) 勤務の都合のとき。(勤務先の証明書を必要とする。)
- (7) 外国の大学、短期大学又は大学院で学修することが教育上有益と認められたとき。(学修先の大学、短期大学又は大学院について証明する書類及び学修内容の書類を必要とする。)
- (8) その他教授会においてやむを得ない理由があると認めたとき。(理由を証明する書類を必要とする。)

第 2 学則第 51 条第 2 項及び横浜国立大学大学院学則第 22 条第 3 項に規定する理由は、前項第 2 号に限るものとする。

(2) 復学

- ① 休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができます。(事前に「授業支援システム」から復学願をダウンロードし、復学日の 1 ヶ月程度前に手続を行ってください。)
- ② 復学した学生は、復学の際に月割計算によるその期の授業料を納入しなければなりません。

(3) 退学

- ① 退学しようとする学生は、退学願（父母等連署）に詳細な理由書を添えて願い出て、学長の許可を得て退学することができます。(事前に環境情報学府係に申し出て、用紙の交付を受け、退学日の 1 ヶ月程度前に手続を行ってください。)
- ② 退学する場合は、その期の授業料を納入していなければなりません。
- ③ 退学する学生は、学生証等を返納しなければなりません。

(4) 他大学受験

- ① 他大学を受験しようとする学生（博士課程前期では 1 年次、博士課程後期では 1・2 年次のみ）は、他大学受験願を提出し、環境情報学府長の許可を得て他大学を受験することができます。(事前に環境情報学府係に申し出て、用紙の交付を受け、受験日の 1 ヶ月程度前に手続を行ってください。)
- ② 他大学受験許可書の発行については、申請をしてから約 1 ヶ月程度かかるので、余裕を持って申請してください。
- ③ 他大学受験に合格した場合は、速やかに退学の手続きをとってください。

3 諸届出について

(1) 学務・国際戦略部教育企画課への届出書類

手続書類	期間・期限	添付書類
父母等連絡人変更届	事由が発生したとき	
父母等連絡人住所変更届	事由が発生したとき	
転籍・改姓及び改名届	事由が発生したとき	戸籍抄本
旧姓使用・旧姓併記届	事由が発生したとき	戸籍抄本
学生住所変更届	事由が発生したとき	
本籍変更届	事由が発生したとき	

(2) 環境情報学府係への届出書類

① 海外渡航届

本学の学生が海外渡航を行う場合（外国人留学生で、一時帰国をする場合も含む）、「海外渡航届」を必ず提出してください。渡航先で重大な災害・事件・事故が起きた場合に安否確認を行う必要があるためです。

※横浜国立大学ホームページからオンライン提出後に、確認画面を印刷（紙あるいはPDF）して、原則として渡航する1週間前までに提出してください。

VII 教員連絡先一覧（50音順）

1 常勤教員

教員名	研究室	内線 番号	メールアドレス
アメミヤ タカシ 雨宮 隆	総合研究棟 E 603 号室	4353	amemiya-takashi-jk@ynu.ac.jp
アラマキ ケンジ 荒牧 賢治	環境情報 1 号棟 503 号室	4300	aramaki-kenji-cr@ynu.ac.jp
イイジマ モトユキ 飯島 志行	環境情報 1 号棟 413 号室	3958	iijima-motoyuki-jc@ynu.ac.jp
イザト ユウイチロウ 伊里 友一朗	化工・安工棟 403 号室	3992	izato-yuichiro-tk@ynu.ac.jp
イシカワ マサヒロ 石川 正弘	環境情報 4 号棟 211 号室	-	ishikawa-masahiro-nh@ynu.ac.jp
イトウ アキヒコ 伊藤 暁彦	環境情報 1 号棟 803 号室	3354	ito-akihiko-xr@ynu.ac.jp
ウシコシ エリカ 牛越 恵理佳	-	4210	-
エンドウ アキラ 遠藤 聡	総合研究棟 S 502 号室	-	endo-akira-hx@ynu.ac.jp
オイカワ ヒロキ 及川 敬貴	環境情報 4 号棟 314 号室	4333	oikawa-hiroki-nm@ynu.ac.jp
オオクボ ヒカル 大久保 光	環境情報 1 号棟 802 号室	-	okubo-hikaru-xp@ynu.ac.jp
オカ ヤスシ 岡 泰資	化工・安工棟 303 号室	-	oka-yasushi-tv@ynu.ac.jp
オカジマ カツノリ 岡嶋 克典	総合研究棟 E 404 号室	4432	okajima@ynu.ac.jp
オクヤマ ナオコ 奥山 尚子	総合研究棟 S 507 号室	-	okuyama-naoko-rt@ynu.ac.jp
オゼキ ケンタ 小関 健太	教育学部第 2 研究棟 302 号室	3414	ozeki-kenta-xr@ynu.ac.jp
カガミ マイコ 鏡味 麻衣子	環境情報 3 号棟 305 号室	4358	kagami-maiko-bd@ynu.ac.jp
カサイ ナオヤ 笠井 尚哉	化工・安工棟 203 号室	3979	kasai-naoya-pf@ynu.ac.jp
カナイ ノリコ 金井 典子	教育学部第 2 研究棟 408 号室	3364	kanai-noriko-jv@ynu.ac.jp
カメヤ タカシ 亀屋 隆志	総合研究棟 S 411 号室	4190	kameya-takashi-px@ynu.ac.jp
カワツ カズタカ 川津 一隆	環境情報 4 号棟 304 室	-	-
クマサキ ミエコ 熊崎 美枝子	化工・安工棟 304 号室	-	kumasaki-mieko-pd@ynu.ac.jp
コバヤシ タケシ 小林 剛	総合研究棟 E 406 号室	3775	kobayashi-takeshi-bj@ynu.ac.jp

教員名	研究室	内線 番号	メールアドレス
サカイ アキコ 酒井 暁子	環境情報 3 号棟 208 号室	4361	sakai-akiko-xw@ynu.ac.jp
サカタ 坂田 ゆず	環境情報 3 号棟 206 号室	4363	sakata-yuzu-zf@ynu.ac.jp
サクライ ヨシキ 櫻井 幹記	化工・安工棟 302 号室	3985	sakurai-yoshiki-hx@ynu.ac.jp
ササキ タケヒロ 佐々木 雄大	環境情報 4 号棟 315 号室	3596	sasaki-takehiro-kw@ynu.ac.jp
シカタ ジュンジ 四方 順司	総合研究棟 S 202-2 号室	4340	shikata-junji-rb@ynu.ac.jp
シブタニ タダヒロ 澁谷 忠 弘	-	3597	shibutani-tadahiro-bj@ynu.ac.jp
シマ ケイスケ 島 圭介	-	-	shima@ynu.ac.jp
シモデ シンジ 下出 信次	教育学部第 3 研究棟 515 号室/ (真鶴)臨海環境センター	3442	shimode@ynu.ac.jp
シュウ サ ヨシカズ 周 佐 喜和	総合研究棟 S 506 号室	-	shusa-yoshikazu-yv@ynu.ac.jp
シライシ トシヒコ 白石 俊彦	環境情報 1 号棟 213 号室	4092	shiraishi-toshihiko-fd@ynu.ac.jp
シラカワ シンイチ 白川 真一	総合研究棟 S 202-4 号室	4159	shirakawa-shinichi-bg@ynu.ac.jp
スエムネ タツユキ 末宗 達 行	総合研究棟 S 509 室	-	suemune-tatsuyuki-gw@ynu.ac.jp
セ ガワ エツオ 瀬 川 悦生	-	-	segawa-etsuo-tb@ynu.ac.jp
タカ ギ アヤ 高 木 彩	総合研究棟 S 510 号室	3719	takagi-aya-fc@ynu.ac.jp
タカサキ ミドリ 高 崎 緑	-	-	-
タカヤマ ヨシキ 高山 佳樹	教育学部第 3 研究棟 514 号室	3440	takayama-yoshiki-fb@ynu.ac.jp
タタミ ジュンイチ 多々見 純一	環境情報 1 号棟 414 室	3959	tatami-junichi-xv@ynu.ac.jp
タナベ リョウジ 田邊 遼 司	環境情報 1 号棟 702 室	4291	tanabe-ryoji-sn@ynu.ac.jp
トミイ タカシ 富井 尚志	総合研究棟 S 403 号室	4118	tommy@ynu.ac.jp
ナカイ サトシ 中井 里史	環境情報 4 号棟 206 号室	4364	nakai-satoshi-dc@ynu.ac.jp
ナカダイ リョウスケ 中 臺 亮 介	環境情報 4 号棟 103 号室	4497	nakadai-ryosuke-pt@ynu.ac.jp
ナカノ ケン 中野 健	環境情報 1 号棟 512 号室	-	nakano-ken-sg@ynu.ac.jp
ナカムラ タツオ 中村 達夫	総合研究棟 S 704-3 号室	-	nakamura-tatsuo-tj@ynu.ac.jp

教員名	研究室	内線 番号	メールアドレス
ナカモト アツヒロ 中本 敦 浩	教育学部第2研究棟 301号室	3384	nakamoto-atsuhiro-hc@ynu.ac.jp
ノザキ ユウ タ 野崎 雄 太	環境情報1号棟 701号室	-	-
ノマ アツシ 野間 淳	教育学部第2研究棟 606号室	3380	noma@ynu.ac.jp
ヒラツカ カズユキ 平塚 和之	総合研究棟 S 704-1号室	4413	hiratsuka-kazuyuki-pz@ynu.ac.jp
フジイ トモヒロ 藤井 友比呂	総合研究棟 S 501号室	3282	fujii-tomohiro-xg@ynu.ac.jp
フジイ マ キ コ 藤井 麻樹子	環境情報4号棟 104号室	4207	fujii-makiko-jd@ynu.ac.jp
フデヤス ヒロノリ 筆 保 弘 徳	教育学部第2研究棟 208号室	3346	fudeyasu-hironori-dt@ynu.ac.jp
ホシノ ユウジロウ 星野 雄二郎	総合研究棟 E 503号室	4435	hoshino-yujiro-hy@ynu.ac.jp
ホンドウ ヒロキ 本藤 祐樹	総合研究棟 E 304号室	-	hondo-hiroki-kc@ynu.ac.jp
マツイ カズミ 松井 和己	総合研究棟 S 608号室	4344	kzm@ynu.ac.jp
マツミヤ マサヒコ 松宮 正彦	教育学部第2研究棟 207号室	3464	matsumiya-masahiko-dh@ynu.ac.jp
マツモト シン ヤ 松本 真 哉	教育学部第2研究棟 419号室	3366	matsumoto-shinya-py@ynu.ac.jp
ミヤケ ユウイチ 三宅 祐一	総合研究棟 S 603号室	4437	miyake-yuichi-xw@ynu.ac.jp
ムラヤマ タイチ 村山 太一	総合研究棟 S 108号室	3301	murayama-taichi-bs@ynu.ac.jp
モリ タツノリ 森 辰則	総合研究棟 S 202-1号室	4132	tmori@ynu.ac.jp
ヤスモト マサノリ 安本 雅 典	総合研究棟 S 508号室	3794	yasumoto-masanori-ky@ynu.ac.jp
ヤマダ タカヒロ 山田 貴 博	総合研究棟 S 605号室	3864	yamada-takahiro-kg@ynu.ac.jp
ヤマモト シンジ 山本 伸次	環境情報4号棟 305号室	4498	yamamoto-shinji-sp@ynu.ac.jp
ヨシオカ カツナリ 吉岡 克 成	環境情報1号棟 911号室	3690	yoshioka@ynu.ac.jp
ヨシダ リュウジ 吉田 龍二	教育学部第2研究棟 110号室	3358	yoshida-ryuji-km@ynu.ac.jp
ワ ニ リョウジ 和 仁 良二	教育学部第2研究棟 107号室	-	-

※ 内線番号はダイヤルイン番号の下4桁と共通になっています。

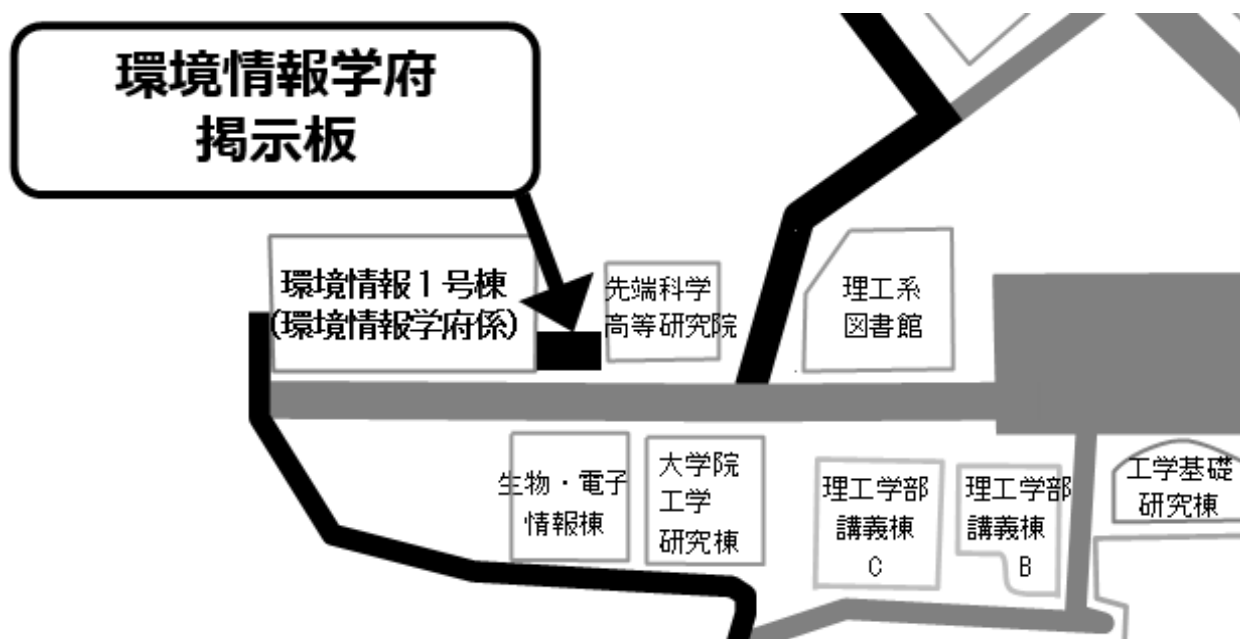
0 4 5 (3 3 9) × × × × (ダイヤルイン番号)

2 客員教員

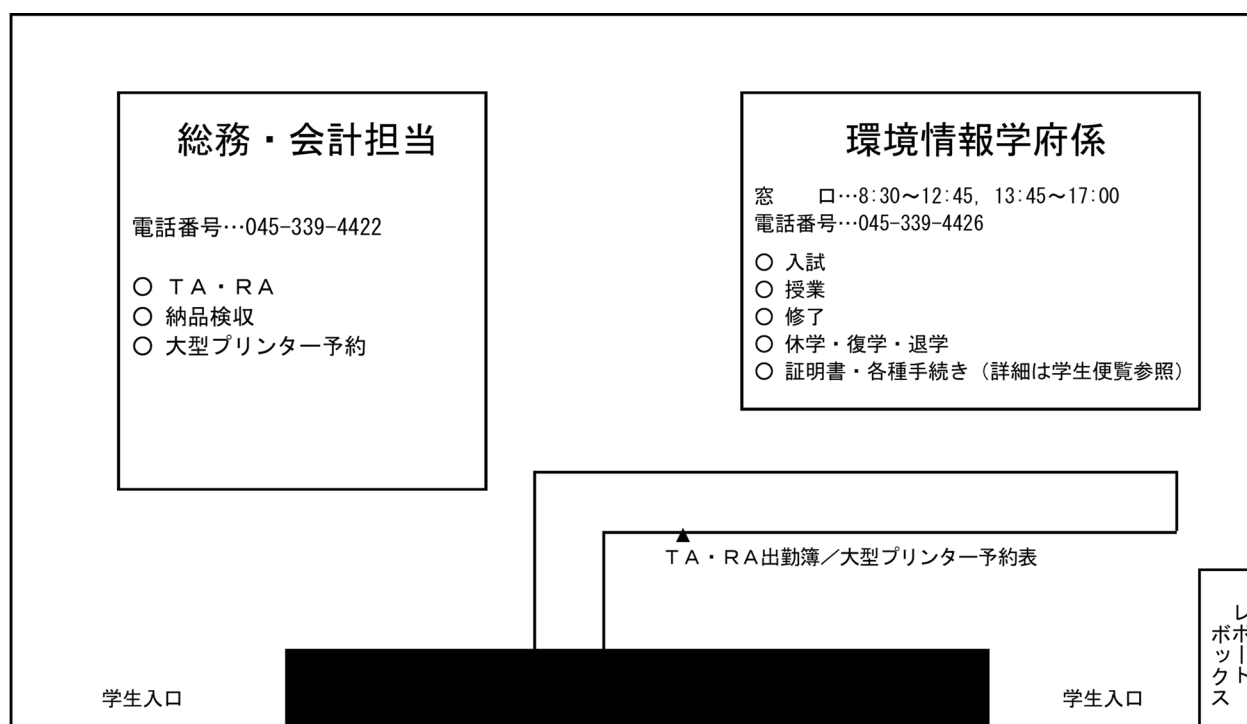
教員名	本務先等	メールアドレス
クラモチ ヒデトシ 倉持 秀敏	〒305-8506 茨城県つくば市小野川 16-2 国立研究開発法人国立環境研究所	kuramochi.hidetoshi@nies.go.jp
コダイラ シュウイチ 小平 秀一	〒237-0061 横須賀市夏島町 2 番地 15 海洋研究開発機構	kodaira@jamstec.go.jp
ムリヤ ムツオ 塗 谷 睦生	〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35 慶應義塾大学医学部	mnuriya@keio.jp
ハギワラ イツペイ 萩原 一平	一般社団法人応用脳科学コンソーシアム/ 株式会社 NTT データ経営研究所	hagiwarai@can-neuro.org hagiwaraip01@nttdata-strategy.com
ハタヤマ ケン 畑山 健	〒182-0012 東京都調布市深大寺東町 4-35-3 総務省消防庁消防研究センター	hatayama@fri.go.jp

VIII 地図

1 環境情報1号棟1階掲示板



2 環境情報1号棟2階事務室



3 環境情報 1号棟 3階講義室・ゼミ室

通常収容人数												
					EV	院長室		310 30人	311 10人	312 10人	313 (教員室)	

～ 講義室・ゼミ室の利用について ～

- 1, 講義室・ゼミ室を利用する場合は、事前に予約する必要があります。
- 2, 1号棟316、1号棟515、4号棟101を使用する場合は部屋の鍵を貸し出しますので、環境情報学府係へお越しください。
ベル、レーザーポインター、ワイヤレスマイクを使用する場合は貸し出します。
- 3, 使用後は原状回復し、照明・空調の電源を切ってから退室してください。
- 4, 講義室・ゼミ室の使用に関する問い合わせのみ、お昼休み(12:45～13:45)も受け付けます。17:00以降に鍵を返却する場合は教職員入口扉のポストに入れてください。

